

みんなの
ための
学校長会に

茨城県 学校長会広報

第247号

発行者
茨城県学校長会
会長 小野瀬 繁子
事務局
〒311-1125
水戸市大場町933-1
教育プラザいばらき内
☎ 029-269-1300
FAX 029-269-1304

第3期 中期教育ビジョン

特集 各部・各委員会の構想 新会員紹介



目次

- 表紙写真に寄せて……………1
- 茨城県学校長会基本方針及び
第3期中期教育ビジョン……………2
- 会長挨拶……………4
- 令和二年度
本年度の活動の方向性……………4
- 特集
「各部・各委員会の構想」……………5
- 特別寄稿「学びの変容に向けて」6
- 課題「新型コロナウイルス問題を
通じて見えてきたもの」……………8
- 市町村教育委員会と学校長会……………9
- 提言二題……………10
- 経営研究「創意と活力に
満ちた学校経営」……………11
- 特集「新会員の抱負」……………14
- 再任会員名簿……………30

五人の一年生

ある日の「深い学び」

常総・五箇小 柴山 優子

昨年度のある日の一年生の教室。「あっ！分かった！」写真の子供は、先生から出された課題について、友達と自分の考えを比べながら何かをつかんだようです。深い学びを目指し、今年度は学んだことをさらに友達と話し合いながら整理し、分かりやすく人に伝えていく力を付けさせます。学校では今、コロナで三密にならないように様々な工夫や配慮をし、どうしても深い学びをすすめられるか苦慮していますが、子供たちの元気な笑顔が早く戻ってくるよう、頑張っています。

茨城県学校長会基本方針及び第3期中期教育ビジョン（3か年活動目標）

1 基本方針

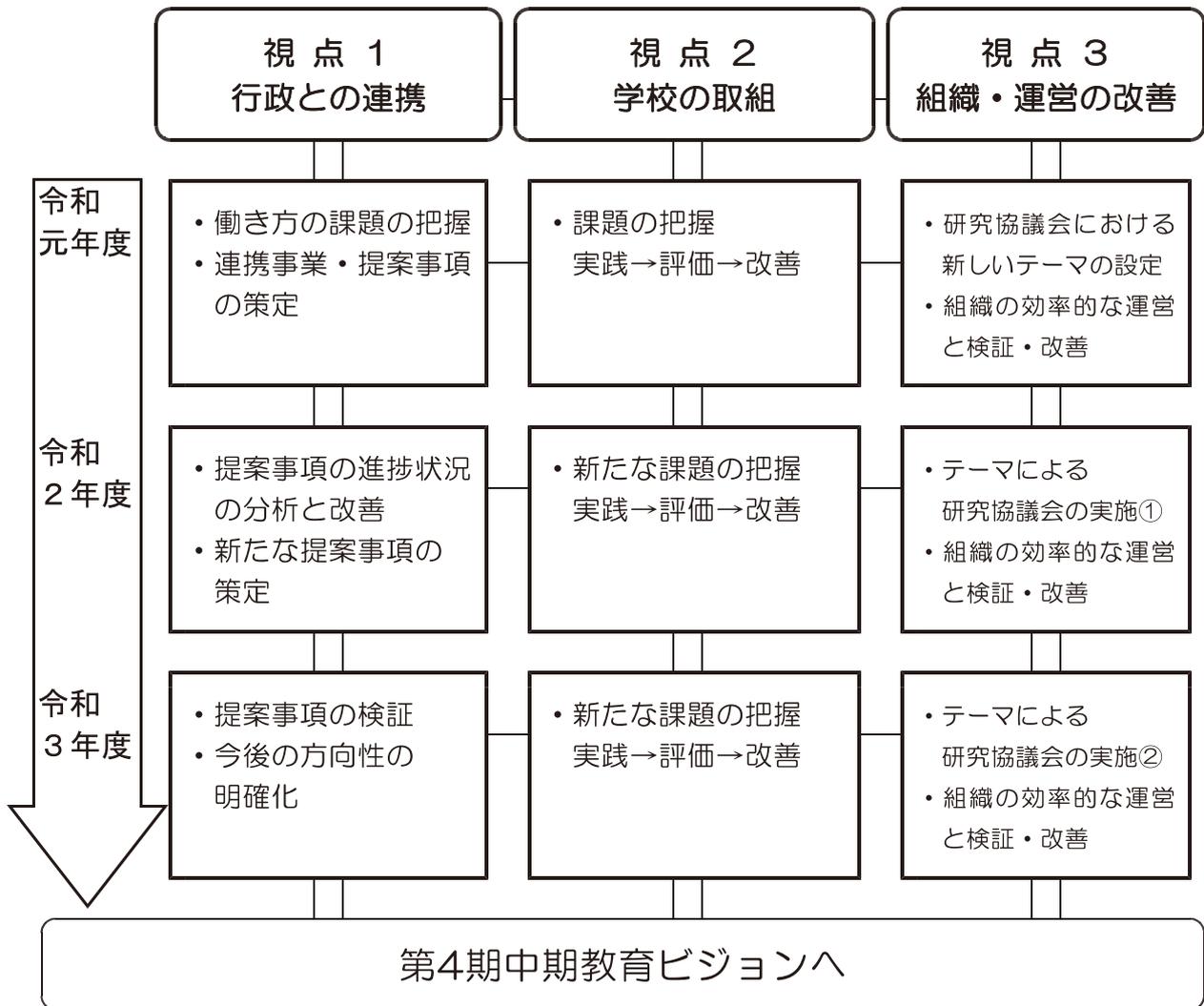
※ これまで取り組んできた精神と業績を継承し、茨城県学校長会の方向性を示したものです。

- 1 学校からの教育改革を目指す学校経営の推進
- 2 学校経営の質を高める研究の推進
- 3 茨城県学校長会の組織運営の活性化
- 4 教育諸条件の整備
- 5 関係機関・団体との連携強化

2 第3期中期教育ビジョン

※ 基本方針を受けた「3か年活動目標」であり、茨城県学校長会の各組織（専門委員会や支部学校長会）間で連携した活動を通して、校長一人一人の参画型の取組を推進し、結果として「われら意識」を高めていけるよう工夫するためのビジョンです。

○ 「働き方改革」を実現し、新しい時代の教育を推進する



3 施策

※ 基本方針，中期教育ビジョンを受けて3つの視点により，3年間で取り組む具体的内容です。

(★：本年度の重点，○：第2期より継続，●：第3期より新規)

視点1（行政との連携）

- 少人数指導教育（少人数学級）の調査研究（注1）
- 教職員定数，学級編成等の改善についての調査研究
- 勤務時間等に関する調査と適正化に向けた茨城県教育委員会等との共同研究の継続
- 茨城県教育行政機関，教育関連機関との連携や情報交換
- ★● 教育諸条件の整備と充実のための人事配置や施設設備等に関する連携・提案の策定
- ★● 各種研修会や募集事業の精選等，業務改善に向けた調整・連携の策定

視点2（学校の取組）

- 教職員の資質能力の向上と人材育成
- 学校の危機管理体制の強化
- 新しい教育制度や新学習指導要領を踏まえた学校経営の推進
- ★● 勤務時間に関する意識改革
- ★● 組織運営体制の改善
 - 学校行事等の精選及び運営の効率化
 - 関係機関・団体による支援体制の確立

視点3（組織・運営の改善）

- ブロック協議会及び小・中学校部会の活性化による情報共有と行動連携（「われら意識」の高揚）
- ★● 働き方改革実現に向けた研究協議会の改善・充実
- ★● 委員会の統合，会議回数の削減等，組織及び運営の見直しの推進と検証・改善

その他

- 全国連合小学校長会，全日本中学校会，茨城県教育研究会及び茨城県小中学校教頭会等との連携強化
- 子ども支援茨城連絡会との連携活動の強化（注2）
- 教育振興大会の開催と教育の充実に関する世論の喚起

（注1）「少人数指導教育」とは，一学級35人以下の「少人数学級」及び特定の教科における「少人数指導」の両面での取組を目指すものです。茨城県学校長会においては少人数学級について調査研究を推進するものです。

（注2）「子ども支援茨城連絡会」とは，教育関係23団体で構成される全国組織「子どもたちの豊かな育ちと学びを支援する教育関係団体連絡会」の下部組織であり，現在のところ，本県では茨P連，茨城県学校長会，茨教組の三者で構成されている子供を支援する連絡会です。

学校の新しい生活様式と 教員の働き方改革

茨城県学校長会
会長 小野瀬繁子
(水戸・第三中)

今年五月に文部科学省から「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル」が示されました。学校の役割は、校内の保健管理体制の確立と学校医、学校薬剤師等との連携を推進することであり、「新しい生活様式」を実践するために、学校生活上留意することや各教科ごとの予防策など、様々な業務があります。可能な限り感染拡大のリスクを低減させながら教育活動を行うことは当然のことですが、一方で、教職員の業務が増えていることを危惧します。児童生徒に効果的な教育活動を行うためには、教職員が心身ともに健康であることが第一で、感染予防策と同時に適切な勤務時間管理が必要です。今年度は、第3期中期教育ビジョン「働き方改革」を実現し、新しい時代の教育を推進するの二年目になります。予定どおりにいかなくても、この状況下だからこそ、行政との連携を一層深め、未来に向けた学校づくりの歩みを止めることなく一歩一歩進めていきたい。

本年度の活動の方向性

学校・家庭・地域がそれぞれの役割を十分に果たしながら、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」のバランスのとれた子供たちの育成に取り組む中、茨城県学校長会は、「理論も実践も兼ね備えた有言実行の教育専門家集団」として、教育の中心的な役割を担う組織としての自覚のもと、活動を推進していく。

学校において、私たち校長は、トップリーダーとして明確なビジョンを示し、具体的な実践と検証を重ねながら、創意と活力に満ちた学校経営に努め、学校からの教育改革を推進することで、県民の信頼と期待に応えなければなりません。

茨城県学校長会は、「理論も実践も兼ね備えた有言実行の教育専門家集団」として、教育の中心的な役割を担う組織としての自覚のもと、活動を推進していく。

本年度は、働き方改革の課題を把握し一層の推進を図るために、県及び市町村行政担当部署を明確にし、県学校長会にもワーキンググループを設置した。市町村行政機関との連携により、校務支援システムやICTの導入等、仕事の効率を上げる取組と教員の長時間勤務改善への行政側の意識改革に関して進展が見られている。今年度は行政と学校長会や市町村学校長会が、双方向的に提案や協議を行い、具体的な取組を推進しながら、進捗状況を分析し、新たな提案事項について策定して

いく。

視点2 学校の取組

勤務時間に関する意識改革

昨年度の調査によると、県全体の6割の学校で、「働き方改革」に係る校内の校務分掌・推進組織等が設置されていた。今年度は全ての学校で推進組織を設置し、具体的な協議・活動内容等を検証していく。また、各校における教職員の勤務時間短縮や効率化への意識改革に進展が見られたのは7/8割程度である。校内の推進役を中心に教職員の意見を集約し、業務を具体的に「実践・評価・改善」に取組むとともに勤務時間に関する継続的な調査を行う。各校の取組の中で、より効果があった具体策については、小中学校長研究協議会等を通して、情報を共有し、各校の今後の取組に生かしていく。

茨城県学校長会は、「理論も実践も兼ね備えた有言実行の教育専門家集団」として、教育の中心的な役割を担う組織としての自覚のもと、活動を推進していく。

本年度は、働き方改革の課題を把握し一層の推進を図るために、県及び市町村行政担当部署を明確にし、県学校長会にもワーキンググループを設置した。市町村行政機関との連携により、校務支援システムやICTの導入等、仕事の効率を上げる取組と教員の長時間勤務改善への行政側の意識改革に関して進展が見られている。今年度は行政と学校長会や市町村学校長会が、双方向的に提案や協議を行い、具体的な取組を推進しながら、進捗状況を分析し、新たな提案事項について策定して

茨城県学校長会は、「理論も実践も兼ね備えた有言実行の教育専門家集団」として、教育の中心的な役割を担う組織としての自覚のもと、活動を推進していく。

本年度は、働き方改革の課題を把握し一層の推進を図るために、県及び市町村行政担当部署を明確にし、県学校長会にもワーキンググループを設置した。市町村行政機関との連携により、校務支援システムやICTの導入等、仕事の効率を上げる取組と教員の長時間勤務改善への行政側の意識改革に関して進展が見られている。今年度は行政と学校長会や市町村学校長会が、双方向的に提案や協議を行い、具体的な取組を推進しながら、進捗状況を分析し、新たな提案事項について策定して

茨城県学校長会は、「理論も実践も兼ね備えた有言実行の教育専門家集団」として、教育の中心的な役割を担う組織としての自覚のもと、活動を推進していく。

本年度は、働き方改革の課題を把握し一層の推進を図るために、県及び市町村行政担当部署を明確にし、県学校長会にもワーキンググループを設置した。市町村行政機関との連携により、校務支援システムやICTの導入等、仕事の効率を上げる取組と教員の長時間勤務改善への行政側の意識改革に関して進展が見られている。今年度は行政と学校長会や市町村学校長会が、双方向的に提案や協議を行い、具体的な取組を推進しながら、進捗状況を分析し、新たな提案事項について策定して

研究協議会を目指し改善を重ね、小中学校種別のグループで、各校における働き方改革の課題や取組等の情報共有が図られてきた。協議を通して、自校の新たな課題や行政と連携した効果的な取組などを知る機会となり充実したものになってきている。今年度は、開催時期やグループ協議の方法を見直し、さらに改善を図っていく。さらに、県学校長会のホームページにより広い範囲での情報提供や情報集約を行い、学校長会としての情報発信に努めていく。

※昨今の台風等の自然災害や感染症拡大防止対応等、学校の危機管理体制の確立や行政と連携した適切な対応が求められている。危機対応の中、安心・安全な学校づくり、児童生徒の学習機会の確保に取り組むため、県学校長会は、果たすべき役割を自覚し、各市町村学校長会や行政機関と一層の連携を深め協働体制を構築していく。

茨城県学校長会は、「理論も実践も兼ね備えた有言実行の教育専門家集団」として、教育の中心的な役割を担う組織としての自覚のもと、活動を推進していく。

本年度は、働き方改革の課題を把握し一層の推進を図るために、県及び市町村行政担当部署を明確にし、県学校長会にもワーキンググループを設置した。市町村行政機関との連携により、校務支援システムやICTの導入等、仕事の効率を上げる取組と教員の長時間勤務改善への行政側の意識改革に関して進展が見られている。今年度は行政と学校長会や市町村学校長会が、双方向的に提案や協議を行い、具体的な取組を推進しながら、進捗状況を分析し、新たな提案事項について策定して

茨城県学校長会は、「理論も実践も兼ね備えた有言実行の教育専門家集団」として、教育の中心的な役割を担う組織としての自覚のもと、活動を推進していく。

本年度は、働き方改革の課題を把握し一層の推進を図るために、県及び市町村行政担当部署を明確にし、県学校長会にもワーキンググループを設置した。市町村行政機関との連携により、校務支援システムやICTの導入等、仕事の効率を上げる取組と教員の長時間勤務改善への行政側の意識改革に関して進展が見られている。今年度は行政と学校長会や市町村学校長会が、双方向的に提案や協議を行い、具体的な取組を推進しながら、進捗状況を分析し、新たな提案事項について策定して

茨城県学校長会は、「理論も実践も兼ね備えた有言実行の教育専門家集団」として、教育の中心的な役割を担う組織としての自覚のもと、活動を推進していく。

本年度は、働き方改革の課題を把握し一層の推進を図るために、県及び市町村行政担当部署を明確にし、県学校長会にもワーキンググループを設置した。市町村行政機関との連携により、校務支援システムやICTの導入等、仕事の効率を上げる取組と教員の長時間勤務改善への行政側の意識改革に関して進展が見られている。今年度は行政と学校長会や市町村学校長会が、双方向的に提案や協議を行い、具体的な取組を推進しながら、進捗状況を分析し、新たな提案事項について策定して

茨城県学校長会は、「理論も実践も兼ね備えた有言実行の教育専門家集団」として、教育の中心的な役割を担う組織としての自覚のもと、活動を推進していく。

本年度は、働き方改革の課題を把握し一層の推進を図るために、県及び市町村行政担当部署を明確にし、県学校長会にもワーキンググループを設置した。市町村行政機関との連携により、校務支援システムやICTの導入等、仕事の効率を上げる取組と教員の長時間勤務改善への行政側の意識改革に関して進展が見られている。今年度は行政と学校長会や市町村学校長会が、双方向的に提案や協議を行い、具体的な取組を推進しながら、進捗状況を分析し、新たな提案事項について策定して

視点3 組織・運営の改善

働き方改革実現に向けた研究協議会の改善・充実

より実効性のある小中学校長

各部・各委員会の構想

小学校部会



新しい学校の姿を創造する

部会長 大塚 昌弘
(水戸・三の丸小)

令和二年度は、新学習指導要領が全面実施となる。各学校では、社会に開かれた教育課程を編成し、新学習指導要領の内容に則り、主体的・対話的で深い

表現力「学びに向かう力や人間性」の三つの力をバランスよく育む教育を実現することが求められる。

学びの視点による授業改善と学習評価を行い、子供たちに、自分自身で明るい未来を切り拓いていくための確かな力を身に付けていかなければならない。

こうした中、新たな課題となった新型コロナウイルスの危機管理は、学校の在り方を改めて考えることになった。登校できない中で、どのように子供たちの心身の健康状態を把握し、学びを保障していくのかを考え、可能な限り対応策を講じてきた。これからの新しい生活様式を基本とする教育活動には、

目指す小学校教育の推進」という研究主題のもと、今年度の活動を推進することになった。

我が国のこれまでの教育観を大きく転換することが求められている。学校はそもそも密閉・密集・密接が前提であり、これが崩れることは、子供たちや教職員にとって、大きな戸惑いやストレスとなることが予想される。そのため、組織としてこの難局に立ち向かい、教職員全員が当事

者意識をもち、知恵を結集し、共に新しい学校の姿を創造していくことが不可欠である。

今年度二年度目となる茨城県学校長会の第3期中期教育ビジョンは、「働き方改革の推進」である。奇しくも今回の感染症対策により、これまで学校の当

中学校部会



新しい時代の学校づくり

部会長 小野瀬 繁子
(水戸・第三中)

令和になって初めての新年度は例年にない出来事ばかりで、経験だけでは解決できない、ある意味、新しい時代が来たと感じました。

り前として、改善や精選が図られなかった教育活動を根底から考えるよい機会となった。各学校が、校長のリーダーシップのもと、同僚性を高め、教職員のもてる力を十分発揮させることで、新しい時代を見据えた働き方改革の実現を期待したい。

臨時休業中、世の中には不安を煽るようなニュースが多い中、職員室の様子は明るく、次々の新しい課題にも柔軟に対応していくたくましさがあり、生徒のために共に考え共に動く、教職員の本質的なよさが随所で発揮されていました。この忍耐強さと寛容さが生徒を支えている

のだと思う一方で、本当にこの働き方でよいのか、精神的な不安を打ち消すための一生懸命さではないのかと慎重な思いで過ぎました。

授業が再開し、来年度の新学習指導要領の全面実施を控え、家庭学習まで含めた学びの保障に力を注いでいます。また、「個別最適化された学び」のツールとしてICT環境の整備が急速に進んでいるところです。

今年度初めの県学校長会関係の会議は中止になったものもあり

りますが、全日本中学校長会の理事会及び総会は、二日間ともWeb会議になりました。画面を通して全国の理事が各都道府県の取組に関して情報を提供し、提案に対して質問や承認を求められました。私を含め全国ほとんどの校長は、Web会議が初めてでした。今まで三日間かけて行っていた日程が短縮されたばかりか、勤務校で参加できるという利便性はとても大きいものでした。課題としては、参加者との関係が希薄なままということです。

新しいことをやらざるを得ない状況に追い込まれると、どうにかしてやるものです。会議の方法ばかりでなく、学校での学び方、生活の仕方、部活動、学級行事等、今までどおりではなく、「安全、縮小、効率的、質の向上」などの言葉をキーワードに、今だからこそ全てを見直し、「新しい時代の学校」の土台を作る必要があります。

学校づくりのヒントは、目の前の生徒の姿や職員室の若い先生方の姿にあると思います。校長らが学びを継続し、若い世代の声に耳を傾け、柔軟な発想で学校経営に取り組むことが、学校のよさを次の世代につなげていく原動力になると信じます。

特別寄稿



学びの変容に向けて

教育庁学校教育部義務教育課 副参事 石塚康英

新型コロナウイルス感染症のまん延により、教職員には通常とは異なる対応が求められ、負担が増しているものと思われま

いへの対応が必要だったこともあり、子どもたちに貸与できるPC端末整備の早期実現が望まれることにも繋がりました。

今般のように、学校の臨時休業により子どもたちが学校に登校できないという特別な状況下において、家庭学習を課す際や学習状況の把握を行う際にICTを活用することは、極めて効果的です。

ここで留意すべきことは、一人一台のPC端末整備など、「IGAスクール構想」は、多様な子どもたちを誰一人取り残さない、公正に個別最適化された学びを実現させることなどを目的として、コロナ禍以前に決定されたということ。

県においては、市町村教育委員会や学校等のご協力をいただき、小中学生向けの授業動画「いばらきオンラインスタディ」を作成し、四月十四日には配信を開始することができました。

今後、各学校においては、学習指導要領に示された理念の実現を図るため、緊急時・平常時を問わずにこのICT環境をいかに活用するか、その準備を

早急に進める必要があります。例えば、いつでも、どこでも学ぶことができるといったクラウド活用を前提とするPC端末の特徴や、その活用によって充実する学習の在り方を教職員が

学び、具体的な授業を構想できなければなりません。ウェブ会議システムを活用した双方向型オンライン授業では、離れた場所にいる子どもたちが意見を共有したり、議論しあったりする学習も可能になります。学びの変容に向け、教職員のスキルを高めるための準備が必要です。

また、子どもたちのPC端末活用を、ノートや鉛筆と同様に日常のものとするためには、必要な時、自らの意思で端末を活用することができる環境を整えておくことも大切です。各学校においては、子どもたちとともに、使用の目的、場面、管理方法などを検討し、保護者に対していくことが必要となります。

最後にになりましたが、今回のコロナ禍という試練の中においても、校長として、社会の急速な変化の状況を一層的確に把握し、識見を高め、教育者としての使命に徹し、よりよい学校経営に取り組んでいただけますようお願いいたします。

行財政



第3期中期教育ビジョンの具現化を目指して

委員長 海野 隆

本委員会は、行財政上の諸問題に関する調査と研究を行い、「教育行政に関する要望書」を作成し、学校長会として県教育委員会教育長へ提出する活動を行います。

新型コロナウイルスによる臨時休業で、学校現場は多方面にわたる対応等に教職員の負担が増え、児童生徒たちのストレスも心配されています。様々な学校行事や児童生徒の活躍の場、教職員の研修機会が自粛されています。そのような中、本委員会では現場の声を集約し要望書へと反映させていくことも我々の責務と考えています。

本年度は県学校長会第3期中期教育ビジョン三か年活動計画の二年目です。重点施策の「少人数指導教育の充実」「教職員定数、学級編制等の改善」「働き方改革等教育諸条件」等への取組結果を示していく時でもあります。これらについて会員の皆様のアンケート調査結果をもとに、教育施策のさらなる改善と有効性が図られるよう要望活動を進めていきます。

一 組織

委員長 海野 隆(水戸大野小)

二 活動目標

第3期中期教育ビジョン二年次の重点について、調査・分析・検証を行い、結果をもとに県教育庁への要望活動につなげ、「学校からの教育改革」をより推進する。

三 活動内容

(一) 教育課題解決のための諸施策に関する調査研究
① 少人数指導教育に関する調査研究と検証
② 教職員定数・教育環境・働き方改革等に関する調査研究と検証

※本年度は学校長・教諭によるアンケートのみを実施する。
(二) 県への要望
① 要望書の作成と要望活動
② 義務教育課・行財政合同検討会の開催

(三) 組織見直しにより、各郡市の委員を調査研究委員会と半数に分け、互いに連携・協力し委員会の運営に当たる。

法 制



「学校長必携(第三十五集)」の発行に向けて

委員長 近重 敦子

本委員会は、学校運営上の法的問題に関する調査研究を行い、教職員の法制意識の向上と円滑な学校運営に資することを目的としています。

昨年度は、「学校運営必携」を三年ぶりに改訂し、十二訂版を発行いたしました。

本年度は主に、「学校長必携(第三十五集)」の発行に向けて活動していきます。

また、県教頭会との連携をさらに進め、法制に関する合同研修会を実施します。

一 組織

- 委員長 近重 敦子(永千波小)
- 副委員長 高野 雅英(北中郷小)
- 同 永盛 弘資

- 幹事 小沼 信行(不韮小)
- 同 柴山 優子(常五箇小)
- 同 塚田 薫(天・依上小)
- 同 熊谷 智仁(日・日高小)
- 同 原田 純一(鹿・鹿野中)
- 同 蛭原 浩一(取聖中)
- 同 池田いずみ(八・東中)

二 活動内容

- (一)「学校長必携(第三十五集)」の発行

(二)法制に関する合同研修 三 活動計画

- (一)委員会(六月・二月)

- ・組織づくり
- ・活動内容及び事業計画の検討
- ・今年度事業反省
- ・次年度の活動計画の検討

- (二)小委員会・ブロック別委員 研修会(六月～十月)

- ・学校運営上の課題とその回答の検討
- ・「学校長必携(第三十五集)」編集作業

- (三)学校長会法制委員会・教頭 会法制部合同研修

- ・学校運営上の諸問題について県教育庁学校教育部義務教育課による指導・助言

教育を取り巻く情勢の変化や今日的な課題に対応するため、一層の調査研究の継続が重要と考えます。

今年度の活動が、児童生徒の安全・安心と教職員の的確な対応へ向け、十分な成果が得られるよう努めてまいります。

調査研究



第3期中期教育ビジョン達成に寄与する調査活動

委員長 安島 可子

本委員会は、本県学校教育の現状や直面している課題等の調査を行っております。

今年度は第3期中期教育ビジョンの二年目となります。昨年度の調査結果を踏まえ、今年度の調査結果と比較検討し、実効性のある「働き方改革」が実現できるよう研究を推進していきます。

学校の現状を的確に調査し、実態を把握することで、県学校長会が課題を解決するために提言や活動を行うための資料として調査結果を提供することを主な目的として活動しています。

各調査の結果は、各学校の経営や業務の改善に生かせるように還元していきます。

また、各学校の特色ある教育活動を調査し、互いに参考にできるような結果を公表し、各学校の教育活動や研究の改善、活性化の一助としていただく活動も行っています。

一 組織

- 委員長 安島 可子(永千波中)
- 副委員長 萩谷 正教(突・栗中)
- 同 倉橋 孝一(神野東小)
- 同 根本 重巳

(かすみがうら・霞ヶ浦北小)

- 同 中川 孝志(鸛五箇小)
- 幹事 浅川 晃(水内原中)
- 同 大芝由美子(壽岩小)
- 同 下河邊 高(ひ勝倉小)
- 同 飯沼 幸則(高松岡中)
- 同 木下 健(鉾白鳥東小)
- 同 片岡 正美
- 同 小林 智(高駒込小)

二 活動内容

- (一)第3期中期教育ビジョンの重点目標である「働き方改革」の実現に向けた勤務時間に関する意識調査の実施・分析、及び基礎資料の作成
- ・小・中各四〇校計八〇校を抽出して実施
- (二)特色ある教育活動の調査とwebページへの掲載
- (三)勤務実態に関する調査の継続実施と分析・考察
- ・十月における超過勤務時間数等の調査
- (四)全連小・全日中の各種調査への協力等

- ・調査依頼校の選定
 - ・調査用紙等の集約と報告
 - ・研究校便覧掲載校の推薦
- ※各種調査へのご協力をお願いいたします。



課題



県学校長会副会長 村田 武彦
(銚田・銚田南小)

新型コロナウイルス問題を通して見えてきたもの

「課題」というテーマでの原稿依頼である。通常であれば「働き方改革」「人材育成」そして、「授業改善」の中から考えることになるのだが、今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大が教育現場を直撃し、三月からの全国一斉の臨時休業、新年度になり延長され、入学式・始業式が行われない学校もあった。刻々と変化する状況の中で、国や県の動向を注視しながら教育委員会の指導の下、各校で対応が求められた。本校も教職員・子供たちには、「ピンチはチャンス」ということを合い言葉にこの難局を乗り切ろうと対応してきた。

今回の一斉休業で、その取組が促進したのもたくさんある。その一つは、ICTツールの活用である。市の迅速な対応により、Zoomが導入された。本校でも、Zoomを使つての始業式を実施した。三密回避の厳戒態勢の中、職員会議での活

向上、地域・学校間の格差と各家庭の通信環境の格差、特に家庭格差への対応は学びの公平性を担保するためにも大きな課題として浮き彫りになった。

もう一つ、大きく浮き彫りになった課題は家庭教育である。分散登校初日に、家庭学習プリント課題、毎日の体温等を記入する健康観察カードを始めた皆さんの提出物が積み重なつた。きちんと家庭のチェックがされている子供、全然チェックが入っていない子供とその格差は大きく担任は愕然とした。教育基本法第十条に家庭教育が示される教育について保護者の「第一義的責任」が規定され、家庭教育の目標として「基本的生活習慣」「自立心の育成」「心身の調和のとれた発達」の三項目が定められてから十数年が過ぎた。改めて家庭教育の重要性を痛感すると同時に、学校としての「家庭教育支援」の在り方を痛感させられた。

結びに、コロナ禍というこの未曾有のピンチをチャンスに変えられるようにみんなで知恵を出し合いながら前進していきたい。

広報



委員 長谷川 聡

会員相互の交流の場に

広報委員会は、会員相互の情報の共有化を図るとともに、学校現場で直面している課題の解決に役立つ会報の作成に努めてまいります。

一 組織

- 委員長 長谷川 聡(本県小)
- 副委員長 橋本 浩志(本赤塚小)
- 同 萩谷 智徳

- 幹事 江幡 和代(本壺原小)
- 同 皆川 修(ひの野小)

- 校正委員 成田 悦子(本大塚小)
- 小委員 齋藤慶一郎(常大上野小)、

- 橘川三喜枝(東茨城大洗南小)、
- 阿部裕美(常太西小沢小)、
- 長谷川範雄(高・高萩中)、
- 米川真喜(神・神栖一中)、
- 横田清子(銚・上島東小)、
- 中田和彦(土・東小)、
- 小松崎明美(石・高浜小)、
- 鈴木はるみ(牛・向台小)、
- 柳下英子(つくば・真瀬小)、
- 井元潤一(か・志筑小)、
- 菊池勇二(つくば・伊奈中)、
- 綱川真理(古・上大野小)、
- 廣澤淳子(結・上山川小)、
- 宮田克己(筑・村田小)、
- 鴻巣伸二(坂・飯島小)、

二 活動目標

- (一) 学校長会の第3期中期教育ビジョン(3か年活動目標)並び活動方針、事業等の周知
- (二) ひばり・梅のかおり欄を通して、会員相互の情報交換を図り、連帯感(われら意識)の高揚を推進する。
- (三) 特集、特別寄稿等を通して、各学校の取組や市町村教育委員会との連携について紹介するとともに、各専門委員会の活動状況並びに全連小・全日中、ブロック研修会等の状況を掲載し、情報の共有化を図る。

三 発行計画及び内容

- (一) 二四七号(七月)
 - (二) 二四八号(七月)
 - (三) 二四九号(八月)
 - (四) 二五〇号(九月)
 - (五) 二五一号(十月)
 - (六) 二五二号(十一月)
 - (七) 二五三号(十二月)
- 「令和二年度の活動の方向、各部、各委員会の構想、新入会員紹介」
- 「特色ある学校経営、創意を生かした特色ある教育課程」
- 「危機管理体制の整備と学校安全の確保、新年度に備えて」

市町村教育委員会と学校長会

北茨城市

一人一人の「生きる力」を育む教育委員会との連携

北茨城・中郷中
花園 浩

北茨城市の学校長会は、小学校一校、中学校五校、計一六校で構成される。北茨城市の学校教育の目標は「一人一人の『生きる力』を育む」である。その目標の下、「可能性やよき」を引き出し、活かし、伸ばす教育の実践に向けて、本会は、教育委員会との連携を図り、「和と信頼」をスローガンに経営力の向上と課題解決に取り組んでいる。毎月一回開催される定例学校長会では、教育長、学校教育課長から市・県の教育課題や現状の説明、指導助言をいただき学校現場での対応につなげている。

また、校長会研修会を年二回開催し、教育委員に出席いただき助言を受ける。一月に開催される市長との懇談会は、教育行政や教育への期待等について直接講話を拝聴するとともに、現場の声を伝える場となっている。さらに、次の取組をしている。

一 子どもの資質・能力の向上
心の居場所となる学年・学級づくり

確かな学力を育む基盤としてQ Uアンケートを活用しながら、研修会を行い、一人一人を活かす集団の育成に努める。

二 確かな学力の育成

学力向上対策委員会を設置し、各校担当者による学力向上策の協議・検討、小中連携による取組を進める。また、指導法研修会では優秀教員等による師範授業を公開し、授業の質的改善に生かしている。ALTは移行期から増員し全時間配置を行い英語教育の充実を図る。

三 教師の資質・能力の向上

若手教員・講師対象の研修会の開催と若手教員等を対象とした計画訪問Ⅱを実施し、教師力向上を図っている。

四 教育実践研修講座

各校から推薦された若手・中堅教員を対象に教育実践を論文にまとめる研修会を開催し、資質向上と人材育成に努める。筑波大学との体育活性化事業平成二八年度から大学教授等を講師に招き授業研究や部

活動の指導者研修会を開催し、体力向上に効果をあげている。

三 安心して学べる教育環境

一人一人を活かす環境
校長会として環境面の改善を要望し特別支援員と図書事務員が増員された。一人一台タブレット整備にも取り組む。

四 学校間連携チャレンジプラン

による小規模校連携の取組
複式学級を有する小規模校が連携し、相互に学校を訪れ、学び合う合同授業を実施する。地域と共に歩む学校づくり
コミュニティスクール実現に向けて、来年度モデル校を設置し、段階的に導入していく。今後も教育委員会と連携を図り、児童生徒一人一人に目を向けて「生きる力」を育んでいく。

行方市

行方市教育委員会との連携

行方・玉造中
小野口 吉政

行方市学校長会は、小学校四校、中学校三校の計七校で組織されている。

七校の校長が常に同じ目線に

立ち、仲間意識をもって学校経営にあたるよう、定例校長会と必要に応じた臨時校長会を開催している。定例校長会は毎月一回開催し、市内公立幼稚園三園の園長を含め、学校経営上の課題研修や情報交換等を行い、学校教育の向上に努めている。

その際、教育長・教育部長及び各課長・指導室長から毎回、指導・助言をいただいている。特に今年度は、市の学校教育プランの最終年度にあたり、基本テーマである「自然と歴史に育まれ、未来を切り拓く 心豊かでたくましい人づくり」の実現に向けて、本市の重点施策である五つの矢(学力向上・いじめ、長欠不登校・特別支援教育・就学前教育・健康安全教育)について、教育委員会と学校長会とが連携して取り組んでいる。その主だった取組について紹介する。

一 学力向上

本市の課題の一つである学力向上については、これまで各校の「授業スタイル」に基づいた授業改善を通して取り組んできた。さらに、市全体としての方向性を合わせることで、新学習指導要領の求める力を身に付けさせるために、今年度より国士館大学の澤井陽介教授を招聘した。「評価からの授業づくり」をテーマに、講演会と研究指定中学校区での授業研究を三回実

施し、指導をいただくことで授業力の向上を図っていく。

二 幼小連携・小中一貫教育

本市ではこれまで各中学校区ごとに施設分離型の小中一貫教育に取り組んできた。さらに今年度からは幼小連携を加え、接続期のアプローチ・スタートカリキュラムを各中学校区の実態に応じて、作成・実施することで、幼稚園教育から義務教育の十一年間を見通した学び「中学校区の特徴を活かした幼少連携・小中一貫教育」に取り組んでいる。その進捗状況を共有するために、年に三回教育委員会による「幼小連携・小中一貫教育推進協議会」を開催している。

三 働き方改革

本市ではこれまで学校長会と教育委員会とが連携し働き方改革を進めてきた。平成三〇年度には「タイムレコーダーの導入」「閉庁日の拡大」等が改善された。さらにより一層推進するために、昨年度、新たに学校長会業務改善ワーキンググループを組織した。各学校で実践している取組を共有し、教育委員会の担当部署と連携・協力しながら教師が笑顔で児童生徒と向き合えるように、業務改善に努めている。

行方市学校長会では、今後も教育委員会との連携を深め、児童生徒の健全な育成を目指して、学校経営に取り組んでいきたい。

提言二題

新生活様式を
子供たちと共に



八千代町PTA
連絡協議会会長
大久保 幹生

二〇一九年末、来る二〇二〇年オリンピックイヤーに胸躍らせ、年明けを待ち望んでいた時を、遠い昔を思い出すかのように二〇二〇年六月の現在この提言を書き始めました。

隣国で拡大を始めた新型コロナウイルス(COVID-19)は、物凄い早さで全世界に蔓延し、約半年の間に、一九六〇国・地域で七二六万九五〇〇人余りの感染が確認され、そのうち四〇万七九一四人の尊い命を奪った(六月二〇日現在)。

私たち一人一人は今、この驚異のウイルスとの戦いの真っ最中である。毎年子供たちを取り巻く環境は著しく変化を遂げているが、これほどの短期間で多くの変化を余儀なくされた経験がおそらく誰にもなく、どう対応してよいのか手探りの日々だ。やつと六月の第二週目より通常登校、通常授業開始となり、

子供たちが自転車や集団登校で学校に向かうのを本当にうれしく思う。しかし、題目にも書いたように、新しい生活様式を取り入れながら生活していく事は、今までと大きく変わったところである。マスクの着用、ソーシャルディスタンスの確保、アルコール消毒。そして何より三密を避ける。

三密を避けながら、学校生活を送る事はとても大きな負担になるように思う。そもそも学校生活とはクラスメイトや、クラブ活動の友達、部活動の仲間、いろいろな人と関わり合いをもちながら、少しずつ絆を深めていくものであると思う。飛沫の飛散を防ぐためにマスクをする。マスクをするのと表情が物凄く

伝わりづらい。ウイルス感染をお互いに防ぐためにソーシャルディスタンスを確保する。距離を保つとグループでの話し合いや、喜びを分かち合うのに、距離が邪魔をする。消毒に関して悪いことはなさそうだが、実際肌が弱い人はアルコールで肌荒れてしまう。消毒しないと不安で仕方ないといった心の不安を抱えやすくなってしまうなどの事も考えられるそうだ。集団生活を送りづらい事ばかりである。近年どの学校でも子供の減少を受け、私たちが子供の頃

よりは教室が狭く感じることは少ないようだが、それでもやはり教室内は密になる。子供たちに、「集まって話さず離れなさい。」「触れ合ってはダメです。」「必ずマスクを着用しなさい。」「そう言い続けなければいけない状態になってしまった。そのような事を続けていくと、他人を恐れ、自分から感染させてしまうかもしれないとも恐れ、何より人との交流や触れ合いを拒否するようになってしまっているのではないだろうか? 私たち保護者と先生方、そして、地域の人々と今まで以上に知恵を出し合い、子供たちをよりよい方向に導かねばならない。

今できることを、前向きに



那珂市PTA
連絡協議会会長
大曾根 香澄

私には現在、中学校三年生の娘と小学校六年生の息子がいます。娘の小学校入学によりPTA活動に参加し始めてから、今年で九年目になります。これまで各種委員会に所属し、委員長を経験したことはありませんが、単位PTAの会長等の本部役員を務めたことはないまま、小学校在籍が最後となる今年、市PTA連絡協議会の会長を引き受けることとなりました。わが息子が通う那珂市立木崎小学校は、在籍生徒数が五七人、実家庭数四五という、市内でも一番規模が小さい学校です。市PTA連会長に就任後、改めてその職責の広さに驚き、このような小規模校の保護者が仰せつかってよい職なのだろうかと思わずに思ったこともあり、しかしながら本校の、小規模校ならではの先生と保護者、保護者同士の距離の近さという利点により、会員減少による活動の縮小等の課題について、活発な議論を経て柔軟に対応することができたことは、本校の強みだと思っております。市PTA連会長という大役についても、私自身の力はわずかですが、本校PTAの絆を礎に、市内各校のPTA会員の皆様の助力を借りながら、職務を全うできればと考えております。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の流行により社会状況が劇変し、学校生活においても、相次ぐ休校措置により、子供たちが長期間在宅を強いられるという異常な事態となつてしまいました。このような状況の中、先生方が子供たちの学び

と生活を支援し、様々な形でつながろうと努力してくださったことは、子供たちだけでなく我々保護者にとつても、大きな力となったと感じています。長かった休校措置が終わり、久しぶりの学校での様子を喜びに話すわが子を見ると、先生と子供、そして子供たち同士が顔を合わせるということの大切さを実感しました。これは我々PTAにおいても言えることで、先生と保護者、保護者同士が対面して意見を交わし課題を解決していくということが、非常に重要であると感じております。一方で、この度の経験があったことで、PTA会員の中には、従来の事業の進め方に対する疑問点や改善点について、新たな意見をお持ちの方もいるのではないのでしょうか。この度の経験をただの災害で終わらせず、ピンチをチャンスに変え、これまでの活動を見直す良い機会ととらえることが必要ではないかと考えております。そうはいっても、今後の新型コロナウイルス感染症の発生状況によっては、思うような活動ができない一年となつてしまう可能性もあります。が、この度の経験を基に、今できることを前向きに活動していきたいと考えております。

創意と活力に満ちた 学校経営

ミドル・アップダウン型の 学校経営を目指して

茨城町・青葉中
折本 正巳

本校は旧桜丘中と旧梅香中を統合して開校した七年目の学校である。学区が広く遠距離からの通学はスクールバスを利用。地域行事が盛んで保護者や地域住民の学校への期待も大きい。

一 本校の課題

数年前までは生徒指導に課題があったが職員の努力や保護者・地域の方の協力により現在は落ち着いている。職員には新たな目標をもたせるとともに、職員間の学び合いを推進しさらなる資質向上を図りたい。生徒には、個性や地域性の違いを認め互いに高め合う人間関係力、自ら考え行動する力や創造力を身に付けさせたい。

二 本年度の学校経営

本校の課題解決のため、職員一人一人の強みを生かした学校づくり、職員が成長する学校づくりが必要であると考えた。職員の成長は生徒の成長に直接つ

ながるからである。

具体的には、ミドル・アップダウン・マネジメントを取り入れた学校経営及び、職員研修の充実を目指す。

(一) グランドデザイン共通理解
校長から職員へ本校教育の方向性を示し、共通理解を図った。

【学校教育目標】

「夢に向かって力強く歩んで行く生徒の育成」自己有用感・高め合う人間関係」

【具体的な施策】

「教師と生徒・生徒相互の良好な関係」を土台に、「夢を描く教育」「人間性を育む教育」「有能性を育てる教育」を推進する。その際、学び合い、ICT、NIEを効果的に活用する。また、教師力の向上、小中連携・地域との連携を推進力とする。

【令和二年度スローガン】

- ・あいさつをする
- ・お互いの良さを知り高め合う
- ・自ら考え行動するバイタリティをもつ

(二) 企画会の活性化

本校の企画会は、校長・教

頭以外は、教務主任、生徒指導主事、保健主事、各学年主任、養護教諭という、いわゆるミドルリーダーで構成されている。

ここでの議論を活性化させることで、校長の理想と教室での現実を融合させるミドル・アップダウン・マネジメントが実現し、同時にミドルリーダーの資質向上につながると考えた。

当初は伝達確認の雰囲気が強かったが、次第に様々な視野からメリットデメリットを議論するようになり、より生徒の立場に立った施策が実現されるようになってきた。また、ミドルリーダーとしての自覚が高まり、学校教育推進力の向上も感じられるようになった。

(三) 職員の資質向上
年度始めに、教師力の基本として次の三点を示した。



- ① 温かさ・力強さのバランス
- ② 7S（スマイル、スマート、シンセリテイ：…）
- ③ 時間軸視点・空からの視点

この基本の他、学級経営力、授業力、その他を向上させるため、校内研修を充実させる。

【計画的な職員研修】

月一回のペースで、研究主任をリーダーとし、職員の学び合いを取り入れて実施。

（朝の会のアイデア、授業づくり、ICT、NIE等）

【外部講師による実践的研修】
外部講師を要請し、実際に授業を実施してもらうなど、実践的な研修を実施する。

昨年度は、小学校学習指導要領解説作成協力者の齋藤真弓先生による道徳示範授業、教職員支援機構の宮迫隆浩先生による講話等を実施した。

【校長室便りによるミニ研修】
随時、校長室便り「インスパイア」を発行し、職員の資質向上に役立てる。

三 おわりに

学校経営における校長の役割として大切なことは、学校の目指す方向を明確にし、職員を適材適所に配置することであるが、その根底に「生徒や職員への愛情があること」が重要だと先輩方から学んだ。このことを忘れず、生徒も職員も成長する学校経営に努めたい。

地域とともに、子供の
自立と社会参加を目指して

日立・日立特別支援学校
小泉 功

本校は常磐線の常陸多賀駅と日立駅間のほぼ中央に位置し、東は太平洋、西は阿武隈山系の山々が広がる自然豊かな環境に囲まれている。昭和四三年に日立養護学校として創立し、今年で創立五三年目を迎える市立の特別支援学校である。この地域の方々には、本校の児童生徒に対しての理解があり、子供たちに気軽に声をかけていただいたり、やさしく見守っていただいたりしている。

社会では、ユニバーサルデザインへの考え方や、基礎的環境整備・合理的配慮の考え方が浸透し、障害者に対する理解が高まってきている。障害のあるなしに関係なく共に暮らすことができる社会「共生社会」の実現に向け、様々な取組がなされている。教育現場でも、ともに学び合う教育「インクルーシブ教育」が徐々に浸透し、障害に対する差別や偏見は薄らいできている。

本校でも、卒業後の「自立と社会参加」をめざし、「地域に学ぶ・地域と学ぶ」をモットーに地域との様々な交流活動に取り組んでいる。その一端を紹介する。

一 生きて働く知識の習得

知的障害の特性として、机上で学んだことが実生活の中で般化されにくいという特性がある。そこで、実生活の中で活用するまでを学習計画の中に位置づけ、生きて働く知識・技能の習得に取り組んでいる。

例えば近所のスーパーでの買い物学習の場面では、算数の時間に学んだ計算力が活かされる。近所のスーパーの方々は、子供たちが勇気を出して話しかけると、やさしく買物の相談に乗ってくれたり、合計金額やおつりの計算に手間取っていてもそつと見守ってくれたりしている。

二 地域人材から体験を通して学ぶ

中学部では、「地域の職人から体験を通して学ぶ活動」を行っている。地域の達人（和菓子屋さん・豆腐屋さん・大工さん・床屋さん・写真屋さん・とんかつ屋さん…）から体験を通して直接その技術を学ぶ活動を実施している。子供たちは、地域の達人の素早い手の動きや細かい作業に驚き、少しでもその技術を学び取ろうとする。地域の達人とコミュニケーションを取りながら、働く喜びを体得することができている。

三 卒業後の自立と社会参加をめざして

高等部では、ビルクリーニングや喫茶サービスの技術を専門家から直接指導していただいている。また、地域の事業所や福祉作業所の協力をいただきながら現場実習を行っている。様々な業種の仕事を体験し、生徒一人一人の特性と業務内容のマッチングを図り、就労につなげている。

四 PTAによる理解啓発活動

PTAのボランティア委員会を中心に、日立市内の高校生や大学生、一般の方々を対象に、年間六回程度のボランティア講座を実施している。講座の内容は、知的障害を中心とした障害特性の理解や支援の仕方についての座学と体験である。この講座の最後には、受講者と保護者によるディスカッションを行う。「以前は、障害児に対して、



どのように接していいか戸惑っていたが、今では自信をもって言葉かけができるようになった。」などの声があつた。この講座の受講者の中から、特別支援学校の教職員や介護員、福祉施設の職員などの障害者を支える仕事を選び、現在も活躍されている方々がたくさん出ている。

五 おわりに

これまで紹介してきた本校の教育活動は、地域の理解と支援なしには成立しない。長年かけて築き上げた地域の方々との信頼関係をもとに「地域とともにある学校」、「地域に学ぶ・地域と学ぶ学校」をめざし、児童生徒の自立と社会参加を支援していきたい。

「石岡かがやきビジョン」に基づく学校づくり

石岡・三村小
田中 康之

本校は、東に霞ヶ浦、北に恋瀬川、西に筑波山を望む風光明媚な景色が広がる自然豊かな地域の高台に位置している。

また、今年で創立一四七年を迎える歴史と伝統がある。六二名の小規模校であり、児童は地域全体から見守られ、のびのびと生活している。

現在、本市の教育施策の「石

岡みらい創生プラン」を踏まえ、基本目標「ふるさとに学び 夢にはばたく 輝くひとづくりのまち」を目指し、日々各種教育施策に取り組んでいる。

一 校内研修の充実

本年度は研修テーマ「深い学びを追究する児童の育成」副題「知識を関連させ、新たな「見方・考え方」を創造する算数科の授業の在り方」を設定し、学習指導要領に即した授業改善を目指して全職員で取り組んでいる。主な内容としては、ICTを有効活用した授業展開の方策、児童のグループ・ワークの工夫、教師側の効果的な「指導言」である。

児童たちは積み重ねの指導により思考力・判断力・表現力に磨きがかかってきているところである。今年度の研修により成果を一層高めたいと考えている。

二 地域とともにある学校

(一)地域ボランティアを生かす
本校では、草花、読み聞かせ、学習支援の三つのボランティアの方々を地域より募り、活動していただいている。

草花ボランティアの方々には、花壇の整備や植栽の管理などが主な活動である。年間を通して、四・五年生が組織している「緑の少年団」と共に、活動もしていただいている。



る。児童と地域の方々との交流により、児童の自然愛護や人権意識などの高揚を育む一助となっている。また、生活科のゲストティーチャーとして、野菜や植物の手入れや育て方など、個別に丁寧に教えていただけると、児童にとつて欠かせない存在となっている。

読み聞かせも児童が毎回大変楽しみにしている。多年の経験と磨かれた技能による発達段階に応じた読み聞かせには感心させられる。活動当日に、児童が早くから座って待っていたり、静かに、時に反応良く聞き入っていたりする姿に、教育効果を感じさせられる。

そして、昨年度から活動が開始された学習支援は、家庭

中央

水戸市
笠間市
ひたちなか市
常陸大宮市
那珂市
小美玉市
東茨城郡
那珂郡
久慈郡

生きる力を育む創意と
活力に満ちた学校経営

新会員の抱負



水戸・城東小
大和田直樹

創立一四七年の歴史と伝統のある城東小学校に赴任できる喜びとともに、その職責の重さを実感しております。

素直で元氣あふれる子供たちのために、保護者や地域の方々の協働・連携を大切にして、「子供たち一人一人が生き生きと輝く学校づくり」を全職員で推進してまいります。



水戸・飯富小
鈴木 睦

三四年間の中学校勤務を経て、初めての小学校勤務。児童も保護者も地域の方々も教職員もマスク姿の毎日。今まで誰も経験しなかった状況でのスタート。そのような中「この学校が

すき―愛される飯富小の児童の育成―」を目指し、使命感をもち自己研鑽に努めて職務を遂行していきたいと考えています。



水戸・上中妻小
穂積弘行

創立一三二年。明るく素直な子供たちと誠実に仕事に取り組む教職員。そして心温かな地域の方々。伝統ある上中妻小学校に赴任し、喜びとともに自らの職責の重さを日々感じています。

「児童の出番を仕組む」の合い言葉のもと、子供の良さを引き出し、子供たちが輝く学校づくりを目指して努力してまいります。



水戸・稲荷二小
小沼信行

創立七四年の歴史と伝統ある稲荷第二小学校に勤務できる喜びと、その責任の重さに身の引き締まる思いです。素直で活気ある子供たち、情熱と愛情あふれる教職員、協力的で温かな保護者や地域の方々とともに、本校の教育理念「稲穂の心」の実現を目指し、笑顔と感動に満ちた学校づくりに取り組めます。

「はい、元氣でした。」マスクの下で笑みがこぼれます。瑞々しいこの時期に楽しい学びを経験させたいと保護者・地域の方が知恵と力を貸して下さいます。地域で子供を育む温かな地に勤務する喜びと重責を感じながら、「つながる」を合い言葉に一人一人の子供の笑顔が輝く学校づくりに努めてまいります。



水戸・渡里小
渡邊郷寿

渡里小には二度目の勤務になり、当時の児童が保護者として、保護者の方が地域住民として学校を支えてくださった、温かい雰囲気のある学校に勤務でき、感謝しております。「和気あいあい、楽しく、凛々しく、渡里小」を

者の方々が、「いつもここに」できるような努力したいです。



水戸・河和田小
瀧 健一

シンボルの大銀杏に迎えられ一四七年の伝統を積み重ねている河和田小学校に勤務できる喜びとともに、その職責の重さを実感しております。

温かで協力的な保護者や地域の方々を支えに、元気で素直な三七〇名の子供たちの笑顔あふれる学校づくりに、教職員全員で取り組んでまいります。



水戸・堀原小
江幡和代

活気ある児童と、創意あふれる教職員、温かな思いで学校を支えてくれる保護者・地域力を備える堀原小学校に赴任し、喜びと職責の重さを実感しております。

「みんなで作くり高め合う魅力ある学校」をスローガンに、学校・家庭・地域が協働した学校づくりに尽力していきます。



水戸・大場小
成田悦子



水戸・緑岡中
鎮目英俊

本校は、「日に新しく、とわに伸びゆく」を教育指標として掲げ、地域の方々に愛されてきた学校です。

小中一貫教育の推進と学校運営協議会制度を活かしながら、生徒・保護者・地域・教職員が一体となり、「夢と希望と感動」を共有できる学校づくりに全力で取り組んでまいります。



水戸・石川中
砂田和広

全校生徒二六八名、教職員二九名でスタートしました。今年度は「明るく 元気に 笑顔で 和んチーム」を合い言葉にしました。一つの目標に向かってみんなで力を合わせ心を一つにして取り組むということです。生徒・教職員が活躍できる場を大切に、心の居場所となる学校づくりを目指していきます。



水戸・内原中
浅川 晃

明るく素直な生徒たちと協力的な保護者や地域の方々、意欲的な教職員に支えられ、伝統ある内原中学校に勤務できる喜びと責任の重さを感じています。

本校に受け継がれてきた「内原中魂」の意義とともに深め合いながら、「地域とともにある学校」の実現のために全力で取り組んでまいります。



笠間・稲田小
加藤宗治

豊かな自然に囲まれ、元気な子供たちと地域の協力に支えられた歴史ある本校に勤務できることに喜びと責任を実感しています。今年度はコロナウイルス対応に追われますが、「ピンチはチャンス」と捉え、変化に対応し、力強く・明るく・前向きに生き抜く子供たちの育成に全力で取り組みたいと思います。



笠間・北川根小
荘司宏征

困難な状況にも関わらず、素直で心優しい子供たち、やる気と情熱に満ちた教職員、協力的な保護者や地域の方々。日々感謝するとともに、職責の重さを実感しております。「明るく・楽しく・美しく」を合い言葉に児童一人一人の夢や希望の実現を目指し、教職員一丸となって取り組んでまいります。



笠間・岩間一小
住谷 隆

愛宕山が見守る自然豊かな環境と温かい保護者・地域の方々、そして何よりも明るく元気な子供たちに囲まれて勤務できることを幸せに思うとともに、職責の重さを実感しております。「みんなが楽しい学校づくり」を目標に、全教職員で寄り添い、見守りながら地域とともに子供たちの成長を支援してまいります。



笠間・岩間三小
黒木明子

再度の休校から始まった令和二年度。分散登校初日の子供たちの笑顔に、教職のやりがいと使命感を再認識するとともに、責任の重さを感じました。岩間第三小学校の子供たち、地域のために「学ぶ喜びや感動いっぱい」の魅力ある学校づくりの実現に向け、教職員とともに精一杯取り組んでまいります。



笠間・友部二中
野沢宗嗣

本校の校訓は「共に語らん共に学ばん共に進まん」です。略称である「友二(ともに)中」にかけて、未来を見据え実の上に作られています。この校訓のもと「チーム和1ク&チャレンジ」をキーワードに教育活動を行っています。さらに学校内にとどめず、家庭や地域とともにある学校を目指します。



ひたちなか・勝倉小
下河邊高

創立一五〇周年を二年後に控え、地域住民の方々とともに、伝統ある学校づくりに取り組んでまいります。また、本年度のグラウンドデザインでは、組織目標を「一人一人と進んでかわり合う」としました。保護者・児童・職員がともに「相手の話を」聴く。認める。つなげる。」を合い言葉に取り組んでまいります。



ひたちなか・高野小
岡部佐知子

杉林の緑豊かな地に七三九名の子供たちの声が響き渡る高野小学校。この変化の時代にその職責の重さを実感しております。「つながる」とともに「のびゆく」をスローガンに、学校として大切にしていくことを見失わず、保護者、地域、教職員が一体となって子供たちが輝く学校づくりに努めてまいります。



ひたちなか・津田小
榎本裕基

創立四五年を迎える本校は、企業とともに開けた閑静な住宅街にあります。新しい地で明るく素直な児童とやる気に満ちた教職員とともに勤務できる喜びと大きな責任を感じております。「夢を育み、元氣あふれる津田小学校」を合い言葉に、保護者や地域の方々とともに児童第一に考え全力で取り組みます。



ひたちなか・長堀小
岩城和久

校訓『かしこく すなおにあかるく』ひたちなか市立長堀小学校五六四名の子供たちとの出会いに喜びを感じています。教育活動のスローガンは『自分への挑戦！』です。保護者・地域の方々協力いただきながら、子供たち・教職員一人一人が温かく支え合いながら目標に向かって歩んでまいります。



ひたちなか・外野小
皆川 修

本校のシンボルである金木屋が毎日迎えてくれる外野小学校に勤務できる喜びとともに、地域の方々や伝統を積み重ねてきていることに、その職責の重さを実感しています。元氣で素直な八一〇名の子供たち、協力的な保護者や地域の方々とともに、笑顔があふれる学校づくりを目指し、取り組んでまいります。



ひたちなか・那珂湊一小
影山敬久

創立一四七七年、歴史と伝統のある那珂湊第一小学校に赴任できたこと、喜びとともにその職責の重さを実感しています。「生きる力を身に付け、たくましく生きる児童の育成」という教育目標の実現に向けて、教職員、保護者、地域の方々の力を合わせて、明るく、楽しく、学校経営に努めてまいります。



ひたちなか・平磯中
朝比奈泰浩

太平洋が一望でき、心地よい潮騒に包まれる環境の中で、誠実に学べる喜びと、来年度の統合を控え、創立七四年という歴史に幕を下ろす年に赴任してきたことに、職責の重さを感じています。「学校が楽しい」と思える「魅力ある学校づくり」に、精一杯取り組んでまいります。



常陸大宮・山方小
浅川多美子

「学校に登校し、勉強をして下校する」この当たり前のことが、できることに感謝し、一〇〇名の山小っ子が、「安心して登校し、満足して下校」できるように「チーム山小」教職員と心を合わせ、子供たちのために力を尽くしてまいります。山方小学校校歌「スマイル」のように、笑顔あふれる学校を目指します。



常陸大宮・上野小
齋藤慶一郎

明治七年に開校し創立二四六年を迎える歴史と伝統のある上野小学校に勤務できる喜びと、職責の重さを実感しています。今年度は新型コロナウイルスの影響で、未曾有の事態が起こっています。一八七名の児童一人一人の学びをどう保障していくか、教職員、保護者、地域とともに考え一丸となって全力で取り組んでまいります。



那珂・額田小
菊地秀典

創立一四七周年を迎える歴史と伝統ある額田小学校に勤務できる喜びとともに、その職責の重さを実感しております。明るく元氣で素直な子供たち、熱意ある教職員、温かで協力的な保護者や地域の方々とともに、子供たち一人一人の笑顔があふれる学校づくりに全力で取り組んでまいります。



那珂・菅谷西小
猿田智之

「笑顔と感動にあふれた学校」をテーマに、全職員が本気で、元氣に、根気よく子供たちと向き合い、子供たちにたくさん感動を味わわせたいと思っています。「学び合い・磨き合い・鍛え合い」を基盤に、児童一人一人の可能性を広げ、地域から信頼される学校となるよう全力で取り組んでまいります。



那珂・芳野小
長山芳子

創立一四八年、緑豊かな自然と地域の方々からの深い愛情に見守られてきた芳野小学校に赴任して、感謝でいっぱいです。素直な二六二人の子供たち、活気あふれる三二名の教職員、学校を大切に思ってくださいる保護者・地域とともに「夢をもち、手応えを感じ、高め合う学校」づくりに精一杯取り組みます。



那珂・木崎小
松下由美子

子供たちが「学校が好き、先生が好き、友達が好き、そして自分も好き」という学校づくりを目指していきたいと思えます。子供たちに居場所があり、自己肯定感をもって生活できる環境づくりを、職員が子供たちの成長を喜び、家庭や地域と一丸となれる学校経営に取り組みんでいく所存であります。



那珂・瓜連小
仁田 稔

本校学区には、「白鳥」飛来の南現地古徳沼があります。「白鳥」の姿は優雅であり、長旅に耐えるたくましさももっています。この地に生きる児童の「自ら学び、たくましく生き抜く力」を育て、「心の故郷」としての学校づくりに教職員・保護者・地域の方々とともに努めてまいります。



那珂・第二中
手塚浩志

明るく素直な二〇二名の生徒とやる気に満ちた一八名の教職員、温かく協力的な保護者や地域の方々に囲まれて勤務できることに喜びとともに職責の重さを痛感しています。笑顔と感動のある学校づくりのために「ワンチーム 那珂二中」を合い言葉に全員が一丸となって取り組んでまいります。



小美玉・野田小
大谷栄子

茨城空港西側に位置し、ダイヤモンド筑波が見える地域です。創立六七年の本校は、コミュニティ・スクールとして一三年の歴史があり、地域の温かな絆の中で児童を育成しています。児童、保護者、教職員に活躍の場があり、学校が明るい笑顔で光り輝くよう、信頼の絆づくりを大切に努めてまいります。



小美玉・下吉影小
塚本清恵

美しい鶯のさえずりが聞こえる自然豊かな環境、素直な五人の子供たち。伝統ある下吉影小学校に勤務できる幸せをかみしめています。「今日が楽しく明日も楽しいな学校」を合い言葉に、保護者や地域の方と連携を深めながら、教職員と力を合わせて、温かく笑顔溢れる学校づくりを進めてまいります。



小美玉・羽鳥小
佐藤雅記

創立一四七年、伝統ある羽鳥小学校の四八一名の児童と来年度統合により閉園する羽鳥幼稚園の二六名の園児、温かな保護者や地域の方に囲まれて、地元勤務できる喜びとともに、職責の重さを実感しております。「子供のため」を第一にぶれることなく、精一杯取り組んでまいります。



小美玉・堅倉小
植田敏浩

歴史と伝統のある堅倉小学校に勤務できる喜びとともに職責の重さを感じています。素直で元気な二八六名の児童、熱意ある教職員、温かく応援してくださる保護者や地域の皆様に支えられながら教育活動を進めています。安心・安全な学校であり、児童一人一人が輝く学校になるよう日々全力で取り組みます。



小美玉・納場小
横山英幹

歴史と伝統ある納場小学校、そして明るく元気な子供たちに囲まれ勤務できることは、大きな喜びとともに責任の重さを日々感じています。温かく協力的な保護者や地域の方々を支えるに、かがやく納場っ子の合い言葉のもと、子供たちの笑顔あふれる学校づくりに教職員一丸となって取り組んでまいります。



小美玉・玉里小
谷萩成利

創立一四五年の歴史と伝統のある玉里小学校に勤務できることに、喜びとともに職責の重さを感じています。今年度、本校は閉校の年を迎えます。『つなぐ』を合い言葉に、学校と家庭・地域との信頼関係を基盤として、児童の夢や希望を大切にする教育を全力で推進してまいります。



東茨城・大戸小
篠原和志

明るく素直な子供たち、みんなで協力して同僚性を高めていこうとする教職員に囲まれ、また、保護者や地域の方々の温かい支援をいただきながら勤務できる喜びと責任の重さを感じています。一人一人の子供たちのために、学校・家庭・地域の絆を深め、子供が輝く学校づくりに全力で取り組みます。



東茨城・石塚小
鈴木 勝

歴史と伝統ある石塚小学校に赴任し、責任の重さを感じています。同時に、明るく元気な三八四名の児童、熱意ある教職員とともに学校生活を送ることに、大きな喜びも感じていきます。



東茨城・明光中
小林伸朗

東には涸沼、南には遠く富士山を臨むことができる恵まれた環境に囲まれた明光中学校。「チーム明光」を合い言葉に、素直な生徒たち、パワー溢れる教職員、そして協力的な保護者、地域の方と一丸となって「学び合い」を核とした生徒の主体性を育む教育の実践に全力で取り組んでいきます。



那珂郡・石神小
平間克司

児童の元気な「おはようございます」に毎朝気合いが入る。本校のすぐ西側にある住吉神社の境内には「真杉（ますぎ）」と表現される天高く伸びる杉の大樹が数多くある。やる気いっぱい、の先生方や心強い地域の皆様方とともに、真杉のように力強く伸びゆく子供たちの成長を精一杯支援してまいります。



久慈・上小川小
廣木恒夫

緑豊かで自然に恵まれた本校は、保護者と教職員が『心一つ』に、地域とともにある学校づくりを目指しています。元気いっぱい、の児童六〇名が、笑顔で明るく楽しい学校生活を送ることができるよう、熱意あふれる教職員とともに、精一杯取り組んでまいります。



久慈・南中
永井美恵子

オンラインでの朝の会や授業、会議をいち早く実践し始めた本校に赴任し、職員が生き生きと働く姿に力をもらっています。例年とはまったく違った今年のスタートでしたが、ここで学ぶ子供たちも、ここで働く職員も、みんなが「幸せ」を感じられる学校となるよう、校長として誠心誠意尽力します。



東茨城・南小
橘川三喜枝

本校は、青い海を眼下に臨む自然豊かな環境に恵まれた創立五年目の学校です。温かく協力的な地域・保護者の皆様との出会いに感謝するとともに、日々の対応の決断に改めて職責の重さを感じています。変革期の校長である自覚と責任をもち、児童も教職員も生き生きと力を伸ばせる学校づくりに努めます。



那珂郡・照沼小
菊地義光

地域とともにある学校である照沼小学校に赴任でき、感謝とともに、これまでの伝統を受け継ぎさらなる発展へ向けた学校づくりへの重責を感じております。一人一人の小さな仕草や吹きを大切に、児童、保護者、地域、教職員とともに、「元気で明るく、仲良く、楽しい学校」を目指して、専心努力してまいります。



久慈・袋田小
菊池 弘

歴史と伝統のある袋田小学校に赴任し、明るく元気な子供たちと温かく協力的な保護者や地域の方々、熱意あふれる教職員と出会うことができました。現在のような危機的な状況になり、改めて学校教育の役割の重要性を実感しています。明るい未来を目指し、皆で力を合わせ乗り越えていきます。



久慈・生瀬小
清水洋太郎

豊かな自然、温かな地域に恵まれ、四五名の児童との学校生活が始まりました。「新型コロナウイルス」への対応や臨時休業等、大変な状況にも負けず、意欲的に学校生活を送るすばらしい児童に「未来を幸せに生きる力」を育むことを理念とし、職員と協働し保護者の皆様と連携し、力を尽くしてまいります。



県北

日立市
常陸太田市
高萩市
北茨城市



日立・滑川小
信田秀穂

明るく元気な子供たちと熱意ある教職員とともに滑川小学校に勤務できる喜びと、校長としての責任の重さを感じております。「子供たちの笑顔と活力に満ちた学校」を念頭に「やるき、やさしさ、やり抜く」を合い言葉にして教職員が一丸となり保護者や地域から信頼される学校づくりに取り組んでまいります。



日立・大みか小
大高美枝子

東に太平洋、西に多賀の山々の豊かな自然、地域の拠点である交流センターが学校敷地内にある恵まれた環境の中、勤務できる喜びと職責の重さを感じています。「すべてはみんな(児童・保護者・教師の笑顔)のために」をスローガンに、教職員とともに魅力ある学校づくりに取り組んでまいります。



日立・塙山小
綿引玲子

本校は太平洋を眼下に臨む高台に位置し、敷地内にピオトープのある緑豊かな森を有しています。自慢はこの自然環境と、学習・安全面への支援や環境整備等を通して、学校を強力に応援してくださる家庭・地域の教育力です。これらを強みとし、二八〇名の児童が安心して学べる学校づくりに尽力します。



日立・田尻小
芳賀友博

豊かな自然と温かな地域の支援に恵まれた田尻小学校に勤務できたことの喜びと校長としての職責の重さを実感しています。



日立・東小沢小
助川浩美

本校教育目標「自ら学び心豊かでたくましい田尻っ子の育成」のため、家庭・地域と手を携え、全職員一丸となって魅力ある学校づくりに尽力します。

久慈川の豊かな水の流れを目の前に田園広がる東小沢小学校。素直な子供たち、温かく協力的な保護者や地域の方々、誠実な教職員との出会いに喜びと職責の重さを感じています。「この学校でよかった」と誰もが思える、活力と笑顔あふれる学校づくりに全力で取り組んでまいります。



日立・山部小
川野邊和

一四〇年を超える伝統と豊かな自然に恵まれた本校は、地域の誇りでもあり、明るく純朴な子供たちの笑顔であふれています。地域から信頼され、子供たちが安心して学べる学校づくりを目指して、やる気と情熱をもった職員とともに「褒めて認めて 一人一人に寄り添う教育」に全力を尽くします。



日立・滑川中
多田賢一

創立四一年目の母校に赴任して二か月が経過しました。生徒がいない教室を歩いてみると、その当時のことを思い出します。新しい生活様式の中での教育活動ですが、「愛情」「対話」「一徹徹底」を基本姿勢として教職員・家庭・地域とともに、生徒主体の教育活動を推進してまいります。



日立・台原中
高村英季

雄大なる阿武隈の丘、遙かなる太平洋を眼下に臨む日立市立台原中学校に勤務し、その職責の重さを実感しています。



日立・豊浦中
皆川 渉

校訓「ただしく つよく むつまじく」のもと、一人一人が輝く活力ある学校づくりを目指し、未来に羽ばたく子供たちのために、教職員一同「チーム台原」として邁進いたします。

小貝が浜の松風が爽やかに吹き、館山の森の緑が眩しい豊浦中で、明るく元気な生徒たち、何事にも前向きな教職員、温かな保護者と地域の方々に出会えたことは、この上ない喜びです。「自分から(主体性)」と「ともに(協働)」をキーワードに、至誠を貫きながら、未来を拓く人づくりに尽力いたします。



日立・坂本中山崎 誠

本校は、阿武隈山地の南端に位置し、歴史ある石名坂という地名を有する学校です。この由緒ある学校に勤務することができ、喜びと職責の重さを感じています。生徒一人一人が将来の夢や希望の実現に向け、大きく羽ばたいていけるよう、教職員一丸となって、未来を拓く人づくりに取り組んでまいります。



常陸太田・幸久小 會澤伯民

創立一四七年を迎える歴史と伝統のある幸久小学校に勤務することができ、喜びとともにその職責の重さを感じています。「すべては子供のために」を合言葉に、児童、保護者、地域住民、教職員との和を大切に、「夢に向かい 心豊かにたくましく生きる子供の育成」に取り組んでまいります。



常陸太田・世矢中西野泰司

八年前まで勤務していた本校に再び校長として赴任することができ、喜びとともにその職責の重さを感じております。素直で明るい生徒たち、協力的な保護者や地域の方々、深い愛情で生徒に関わる教職員に囲まれ、「生徒も教師も『今日も来て良かった』」と思える学校づくりに尽力してまいります。



高萩・東小 國井春美

爽やかな海風、波の音に包まれた東小学校。そして、明るく元気な一九六名の子供たち、意欲溢れる教職員に出会えた喜びを感じるとともに、校長としての重責を実感しています。今、大変な時期だからこそ、「全ては子供たちのために」を合言葉に、教職員一丸となり、全力で取り組んでまいります。



高萩・高萩中 長谷川範雄

昭和二年の創立以来、多くの方々を支えられ、地域とともに歩んできた高萩中学校に勤務できる喜びと責任の重さを感じております。「すべては生徒のために、すべての生徒のために」を合言葉に教職員、保護者、地域が一体となって生徒主役の学校づくりに努めてまいります。



高萩・松岡中 飯沼幸則

江戸中期、松岡地区の学芸と文化の発達は、庶民によって進められ、学問好きの人々が仕事の余暇を見出し、詩を作り、書を読み、研修に努め、「学問の光」を掲げました。「日就月将」は、本校の生徒に脈々と流れています。「自ら学び心豊かでたくましい生徒」の育成に真摯に取り組んでまいります。



北茨城・中妻小 根本光倫

歴史と伝統ある、この中妻小学校に勤務できることに大きな喜びを感じるとともに、その職責の重さを実感しております。八六名の児童が、「自ら学び、自ら判断し、実践できる」姿を実現できるように、保護者、地域、学校が連携し、「チーム中妻」として、精一杯取り組んでまいります。



北茨城・華川小 蛭田純一

本校は、自然に囲まれたすばらしい所にあります。児童数一九名と小規模校ですが、だからその良さや強みが多くあり、華川小に勤務できる喜びと責任の重さを感じております。子供たちの社会を生き抜く力を育成するため、地域や保護者と連携し、チーム華川でがんばってまいります。



北茨城・常北小 川和雅人

岡倉天心・六角堂・国重要無形民俗文化財に指定された御船祭等、歴史と文化に彩られた地である常北中学校に勤務できることに、この上ない喜びと同時に責任の重さを痛感しています。通常の教育活動が困難な状況ですが、全校生徒二二名の「夢の実現」に向けて、全職員一丸となって取り組んでまいります。



県 東

鹿嶋市
神栖市
潮来市



鹿嶋・高松小
谷田川明美

温かい地域や保護者の皆様に支えられてきた歴史と伝統ある高松小学校に勤務できる喜びと職責の重さを感じております。小中一貫校としての強みを生かし、「地域で育つ高松っ子」を合い言葉に、児童一人一人が自分のよさを伸ばしていくことができる笑顔あふれる学校づくりをチーム高松で目指します。



神栖・須田小
二重作洋夫

創立一四五五年の伝統を紡ぐ須田小学校に赴任し、新たな時代を生き抜く力を目の前の子供たち一人一人に育むことへの職責の重さを痛感しています。「子供のやる気を引き出し、笑顔を増やす」を組織目標として掲げ、活力ある学校づくりに向け保護者や地域とスクラムを組み全力で取り組んでまいります。



神栖・柳川小
小沼千秋

明治八年創立の伝統ある柳川小学校に赴任し、思いやりのある児童、明るい教職員、温かい保護者や地域の皆様との出会いに感謝するとともに、伝統を継承していく責任の重さを痛感しています。「よく学びよく遊び心豊かでたくましい児童の育成」を目指し、ONE TEAMの精神で取り組んでまいります。



神栖・神栖一中
米川貢喜

素直で明るい生徒たち、何事にも前向きに取り組む教職員、協力的な保護者や地域の方々に囲まれて勤務できる喜びと責任の重さを感じています。スローガン「プライド一中」を合い言葉に、自分の学校に誇りをもち「私は神栖一中の出身です」と胸を張って言える学校づくりに邁進します。



神栖・潮来二中
五喜田満

いつでも温かく見守り、応援してくださいと、たくさんの方々の保護者・地域の方々に支えられているということが、本校の一番の特色です。様々な課題が山積する今こそ、保護者・地域の方々とともに、「夢に向かって志を立てたくましく前進できる」人材の育成に全力で取り組んでまいります。

県 南

土浦市
石岡市
龍ヶ崎市
取手市
牛久市
つくば市
守谷市
稲敷市
かすみがうら市
つくばみらい市
稲敷郡
北相馬郡



土浦・都和南小
藤森幸子

都和南小学校は創立三八年、市内で最も広い校庭を所有している学校です。そこで二七名の児童が生き生き伸び伸びと学校生活を送っています。「自ら考え自ら行動し、心優しく笑顔あふれる子供の育成」を目指し、全職員・地域・保護者が一丸となって日々の教育活動に取り組みでまいります。



石岡・府中小
朝賀隆行

創立七六年の歴史と伝統ある府中小学校に勤務できることへの感謝の気持ちとともに、職責の重さを実感しております。「すべては子供たちのために」を合い言葉に「一人一人が輝く夢と活力にあふれた楽しい学校」を目指し、教職員・保護者・地域と一体となって、全力で取り組んでまいります。



石岡・関川小
宇津野正

創立六四年を迎える伝統ある関川小学校に赴任し、新たに校長職となり、職責の重さを痛感しております。児童、保護者・地域、学校それぞれの人と人とのつながりを大切に、「児童の幸せのために、認め、伸ばし、夢にチャレンジする学校づくり」を目標に掲げ、努力してまいります。



石岡・瓦会小
藤岡俊幸

創立一四五年の歴史と伝統を受け継ぐ本校に赴任できましたことに、喜びと責任の重さを感じております。ふるさとを愛し、新しい時代に夢をはばたかせる児童の育成に向けて、保護者や地域との信頼関係のもと「笑顔いっぱい・元氣いっぱい・瞳輝く楽しい学校」を目指して取り組んでまいります。



石岡・小桜小
中澤正蔵

緑豊かな美しい環境や家庭・地域の協力的体制など、子供たちが育つ環境が整っている小桜小学校に勤務できることに感謝しています。常に軸足を児童に置きながら、温かく、誠実に対応する先生方の力を結集させ、一人一人が主体的に考え、判断する力を育む学校づくりを全力で進めていきます。



龍ヶ崎・馴馬台小
吉原誠一

創立二七年目を迎える、地域とともにある馴馬台小学校に校長として勤務できることに感謝するとともに、その職責の重さを実感しています。「児童一人一人が生き生きと学ぶ活力ある学校」を目指し、地域・保護者の皆様の協力を得ながら、教職員一致団結しチーム馴馬台で取り組んでいきます。



龍ヶ崎・中根台中
湯原 徹

昨年度創立二五周年を迎えた本校は、「共に生きる」の校訓のもと、生徒、保護者、教職員が、地域の方々との関わりを深めながら、新たな時代の学校づくりを進めてきました。明るく人懐っこい生徒たちが、自己の生き方を深く追究できるよう、教職員が一丸となって精一杯支援してまいります。



龍ヶ崎・城ノ内中
小林孝太郎

平成一一年に開校した本校の校訓は、「認め合い支え合う」です。予測困難なこれからの時代を認め合い支え合ってたくましく生きていける生徒の育成を目指して、保護者や地域の方々のご支援を賜りながら、教職員が一丸となって「チーム城ノ内」を合い言葉に全力で取り組んでまいります。



取手・戸頭小
木村 勤

教頭として赴任した取手市戸頭に、再び校長として勤務できますことに喜び、そして職責の重さを感じております。保護者・地域の皆様のご協力を仰ぎ、児童が「分かる、できる、楽しい」を実感できる学校を築いていくために、常に前向きな職員とともに、「チーム戸頭」として取り組んでまいります。



取手・山王小
浅野 誠

明治六年の創立以来、地域の皆様から愛され、地域とともに歩んできた伝統ある山王小小学校に勤務できることを幸せに思うとともに、地域の期待の大きさを実感しています。子供たちにとって「今日が楽しく、明日が待たれる学校づくり」を目指して、全力で取り組んでまいります。



取手・六郷小
菅谷和美

「みんなだいすき六郷小」これが本校のキャッチフレーズです。熱心な教職員、あたたかな保護者、協力的な地域の中で育ってきた六郷小学校の児童は、皆明るく前向きで、そして六郷小学校が大好きです。児童そして教職員が、よさを発揮しながら活動できる学校づくりを進めてまいります。



取手・久賀小
永尾 剛

「着眼大局着手小局」全ては子供たちの輝く未来のためにやるべきことを今「久賀小学校の子供たちの輝く未来をイメージし、その未来を輝かせるための教育実践に本校自慢の教職員が力を出し合い臨んでいます。令和二年度久賀小丸、希望の風を帆に受け、開校以来最高の学校を目指し、いざ船出です。



牛久・向台小
鈴木はるみ

児童数五九四名の本校は、保育園を併設し休み時間には園児と児童が同じ校庭で遊びます。保護者はPTA活動に積極的です。地域の協力を得て畑やホタル観察等の体験活動も盛んです。この恵まれた環境を活かし、地域コミュニティの核となる、ともに学び合う「学びの共同体」の学校づくりを目指します。



牛久・牛久南中
立花勝行

牛久市立牛久南中学校に勤務
できることに喜びを感じるとも
にも、日々責任の重さを実感し
ています。

明るく素直な四三二人の生徒
たち。熱意をもった先生方。そ
の一人一人が「幸せ」でいられる、
そして保護者や地域の方々に信
頼していただけるような学校つ
くりに取り組んでまいります。



牛久・おくの義務
柳橋勝幸

今年度「義務教育学校」とし
て開校しました。「つなぐ」を
スローガンに教職員とともに第
一步を踏み出しました。子供た
ちの九年間をしっかりとつなぎ、
一人残らず質の高い学びが保障
できるよう努めてまいります。
そのためにも学校、家庭、地域
がつながり「チームおくの」と
して力を合わせてまいります。



つくば・九重小
玉田晴美

明るく元気な児童、「九重小
プライド」をもって真摯に児童
と向き合う教職員、支えてくだ
さる保護者や地域の方々。歴史
と伝統のある九重小学校に赴任

できた感謝とともに重責を感じ
ております。「児童一人一人に
寄り添い、学びの質を高め、信
頼される学校づくり」に全力で
取り組んでまいります。



つくば・手代木南小
澤邊芳幸

明るく素直な子供たちと温か
く協力的な保護者や地域の方々
に囲まれて手代木南小学校で勤
務できることに、喜びとその責
任の重さを実感しています。
「笑顔・夢・感動がひろがり
未来を拓くたくましい児童の育
成」を目指し、活力ある教職員
や保護者・地域と一体となって
取り組んでまいります。



つくば・前野小
尾見裕史

つくば市北部に位置する明治
二六年創立の本校は、小中一貫
型小学校の児童数一三七名の地
域とともに歩む学校です。

本校の教育目標は「みんなで
創ろう 笑顔あふれる 楽しい
学校 きれいな学校」です。児
童と教職員が協働して、この目
標が日々実現していける学校つ
くりを推進していきます。



つくば・荃崎小
岡野真弓

豊かな自然と、愛情深く協力
的な地域の方々に支えられた荃
崎第三小学校に勤務できる喜び
とともに、責任の重さに身の引
き締まる思いです。「すべては
子どもたちのために。チーム荃
三！」を合い言葉に、子供たち
も教職員もそれぞれの良さが発
揮できる活力ある学校経営を目
指し、全力で取り組みます。



つくば・高山中
若山隆男

創立六九年を迎える歴史と伝
統ある高山中学校に勤務するこ
とができて光榮に思います。

学校の周りは、緑豊かでのど
かな環境ですが、近くには、つ
くばエクスプレスの駅があり
徐々に開発の波が押し寄せてい
ます。変わりゆく環境の中で「地
域とともにある学校」の構築に
努めてまいります。



つくば・手代木中
酒井和宏

創立四一年目を迎える手代
木中学校で、可能性に満ちた
五〇四名の生徒とともに過ごせ
ることは大変な喜びであり、また、
その責任を重く感じております。
「文武両道」の伝統のもと、「人
や社会とつながり、未来を切り
拓く、心豊かな生徒の育成」の
実現に向けて全力で取り組んで
まいります。



守谷・高野小
小田倉英樹

創立一四六年を迎える歴史と
伝統のある高野小学校に、学校
長として勤務することとなり、
身の引き締まる思いとともに責
任の重さを感じています。

「未来を生きたくましい子
供を育てる」という教育目標の
実現を目指し、地域とともに全
教職員一丸となって取り組んで
まいります。



守谷・守谷小
奈幡 正

「八坂の銀杏仰ぎつつ 葉師
の丘を望みつつ」この校歌を
歌って守谷小を卒業し、四四年
後に母校に赴任しました。
四月一日に教職員と確認した
ことは、児童と一緒に「感動」
「感謝」「幸せ」を共有し、実感
することです。校歌四番「この
地に学ぶ幸思う」一この一節ど
おりの守谷小を目指します。



守谷・郷州小
岩瀬良伸

今年で創立三十八年目を迎える郷州小学校で、二七五名の児童とともに過ごせることの喜びと、職責の重さを実感しております。変化の激しい社会の中でありますが、教職員・保護者・地域の方々



守谷・御所ヶ丘中
鈴木邦弘

平将門伝説のある地に立つ創立三六年を迎えた御所ヶ丘中学校。赴任した喜びと職責の重みを感じております。諸先輩校長の経営理念を基盤に、新たな御所ヶ丘中学校を築いてまいります。生徒と教職員が「意地」と「プライド」をもって、自己実現を図れる学校づくりをチーム御所ヶ丘で実現してまいります。



稲敷・高田小
長峰正道

地域・保護者の皆様に温かく見守られている創立一四四年の歴史と伝統ある学校に勤務できることに喜びと職責の重さを実感しています。子供たちが卒業するとき、「この学校で学べてよかった。」と心から思える学校づくりを教職員と力を合わせ、全力で進めてまいります。



稲敷・あずま北小
大谷次男

一五年ぶりにあずま北小学校に勤務できることに喜びを感じるとともにその職責の重さを日々実感しております。一六名の教職員一丸となって八三名の児童が「明るい子」、「たくましい子」、「考える子」になれるように共通理解・共通実践を通して健やかな成長を促していきます。



かすみがうら・霞ヶ浦北小
根本重巳

本校は、平成二八年度に三校が統合し、開校された学校です。自然豊かなこの地で向上心にあふれる教職員と地域の皆様の温かいお力をお借りしながら、子供にとっては「学びがいのある学校」、職員にとっては「働きたいのある学校」、地域の皆様にとっては「応援がいのある学校」を目指してまいります。



かすみがうら・志筑小
井元潤一

旧千代田町に位置する本校は創立一四七年目を迎えます。現在八五名の児童が在籍していますが、来年度末で閉校することが決まっています。残された期間の中で、協力的な保護者・あたたかい地域の方々・熱心な職員とともに、子供たちによりよい思い出をつくってあげられるよう、努力してまいります。



かすみがうら・七会小
久保田勝義

明るく素直な五九名の子供たち、温かく協力的な保護者や地域の方々を迎えられ、自然に恵まれた歴史と伝統ある七会小学校に勤務できる喜びと職責の重さを日々感じていきます。「三つのあい（合い・会い・愛）があふれる学校」をめざして、教職員一丸となり精一杯取り組んでまいります。



かすみがうら・千代田中
岡野浩則

筑波山地域ジオパークに位置する自然豊かな環境と誠実で意欲的に取り組む生徒たち、温かい思いで学校を支えてくださる保護者や地域の皆様。千代田中学校に赴任できた感謝とともに重責を感じております。生徒の目標実現に向け、教職員一丸で、一人もとりこぼさない教育を推進してまいります。



つくばみらい・豊小
片岡正美

豊かな水田に囲まれた創立一三四年の伝統ある豊小学校に赴任できたことに、喜びとともに職責の重さを実感しています。本校の宝物である一一九名の子供たち全員が、幸せな人生の創り手となることができるように、小規模校の強みを生かし、職員、保護者・地域の方とともに全力で取り組んでまいります。



つくばみらい・伊奈東小
菊地勇二

伝統ある板橋小学校と東小学校の両校が今年度統合し、伊奈東小学校となりました。その新たなスタートの年に勤務できる喜びとその職責の重さを実感しています。両校の素晴らしい伝統を引き継ぎ、児童一人一人が輝き、保護者や地域が誇れる新たな学校づくりを目指して全力で取り組んでまいります。



つくばみらい・伊奈中
長塚和徳

つくばエクスプレス沿線の田園地帯にある本校は、素直で礼儀正しい生徒たち、協力的な保護者や地域の方々に支えられております。このような学校に勤務できる喜びと職責を感じながら、「笑顔と感動のあふれる学校」を目指して、この学校に通えてよかったと思える学校づくりを推進していきます。



稲敷郡・大谷小
杉野賢治

創立一四六年を迎えた歴史と伝統のある大谷小学校に勤務できることに、喜びとともにその職責の重さを実感しております。「自分が大好き みんな大好き」をテーマとして、子供たちの笑顔があふれ、家庭・地域から信頼される学校づくりを目指し、教職員一丸となって全力で取り組んでまいります。



稲敷郡・君原小
秋山美穂

明治一〇年創立の本校は、豊かな自然に囲まれ、地域の方々の温かな思いに支えられています。全校児童六二名の小規模校ならではのよさを最大限に活かし、素直で優しい子供たちが未来に向かってたくましく成長することを目指します。全職員・地域の皆様と想いを一つに学校づくりを進めてまいります。



稲敷郡・舟島小
佐藤賢信

明るく素直な子供たち、熱意ある教職員、協力的な保護者や地域の方々に囲まれて、本校に勤務できる喜びと職責の重さを日々実感しています。一人一人が夢や希望をもち、その実現に向けて「チャレンジスピリットで突き進む舟島小学校」を目指して、全力で取り組んでまいります。



稲敷郡・朝日中
渡邊健司

豊かな自然と新興住宅地が融合し、校歌は古閑裕而先生が作曲。そんな歴史と伝統ある朝日中学校に勤務できる喜びと、責任の重さを感じております。前校長先生の「チャレンジ」を継承し、一步でも「前進」できるよう「チーム朝日」一丸となり、一人一人の夢の実現に向けて、邁進してまいります。



稲敷郡・竹来中
山下克久

休校で静かだった校舎に、ようやく子供たちの笑顔と職員の仕事生きた姿が見られるようになり、学校本来の姿が戻ってきたことに喜びを感じるとともに、その重責を実感しております。「自主・創造・協和」の校訓のもと、職員一丸となって一人一人が輝く活力に満ちた学校づくりに努めてまいります。



北相馬・布川小
直井由貴

素直で明るい子供たち、協力的な保護者や地域の方々、前向きに取り組む教職員に囲まれて勤務できることの喜びと責任の重さを感じております。「えがおでなかよし布川小」を合い言葉に、一人一人のよさを伸ばし、地域とともにある学校を目指し、全力で学校経営に努めてまいります。



古河・古河二小
佐藤隆之

創立一〇〇年の歴史と伝統ある古河第二小学校に勤務できる喜びと職責の重さを実感しています。誠実で熱意ある教職員と、協力的で温かい保護者や地域の皆様とともに、「その子にとって一番大切なことは何か」を常に追求し、安全・安心で希望のある学校づくりに努めてまいります。

県西

- 古河市
- 結城市
- 下妻市
- 常総市
- 筑西市
- 坂東市
- 桜川市
- 結城郡
- 猿島郡



古河・古河五小
勝 文雄

創立六一年を迎える古河第五小学校は、旧日光街道を通学路にもち、渡良瀬遊水地に程近い、歴史と文化、自然環境に恵まれた学校です。小鳥のさえずりが響く閑静な学舎に於いて、熱意溢れる教職員、協力的な保護者、地域の方々と共に「あかるくすなおな 五小の子」の育成に向け、取り組んでまいります。



古河・上辺見小
新井清司

明治七年創立の歴史と伝統のある上辺見小学校に着任し、その責任の重さに身が引き締まる思いです。新型コロナウイルス対策で新しい生活様式が求められている今だからこそ「当たり前のことを当たり前に行う学校」を目指し、教職員一丸となって取り組んでまいります。



古河・西牛谷小
太田一茂

明るく素直で元気な二二三名の西牛つ子と情熱あふれる教職員、協力的な保護者やおやじの会の皆様に支えられた西牛谷小学校に勤務できる喜びと責任の重さを実感しております。「やさしく・かしく・たくましい人間性豊かな児童の育成」を目指し、「チーム西牛」ワンチームで取り組んでまいります。



古河・大和田小
田崎 諭

明治二四年創立、歴史と伝統ある大和田小学校は、協力的な地域や保護者の方々に支えられています。笑顔いっぱいの子供たちが、夢に向かって成長できるよう「⑧顔であいさつ ⑨んばりぬく ⑩おきな夢をもつ」を合い言葉に、「チーム大和田」として様々な教育活動に取り組んでまいります。



古河・名崎小
安達和宏

創立一四五年を迎えた伝統ある名崎小学校に赴任し、喜びと責任の重さを痛感しています。新しい時代における学習や生活に対応する中で「郷土に誇りをもち、たくましく生きぬく子」の育成を目指します。保護者や地域の皆様との連携を深め、熱意ある教職員と共に全力で取り組む所存です。



古河・釈迦小
松田智子

創立一四七年の歴史と伝統のある釈迦小学校に勤務できるとをうれしく思うと同時に、職責の重さを実感しております。保護者・地域の皆様、教職員が連携をはかり、「子どもたちが毎日学校に笑顔で来られる、保護者が子どもを通わせたい」と思える学校づくりに日々全力で取り組んでまいります。



古河・小堤小
寺田一宣

創立一三一年の歴史と伝統のある小堤小学校に新任校長として着任し、その責任の重さに身の引き締まる思いです。教職員が一丸となり、「保護者・地域の方々と手を携えて、明るく素直な一九一名の子供たちにとって、「学びがいのある学校」となるよう、全力で取り組んでまいります。



古河・中央小
尾花 潔

明るく元気な四七三名の児童と愛情をもって児童に向き合う教職員、熱心に応援してくださいる保護者や地域の方々、この素晴らしい出会いを大切にしていきたいです。「夢をはぐくみ、知・徳・体のバランスのとれた人間性豊かな児童の育成」を目指し、「一人一人がかがやこう」を合い言葉に取り組んでいきます。



古河・駒込小
小林 智

創立二二八年の歴史と伝統のある駒込小学校に赴任できたこと、喜ばしく思うと同時にその職責の重さを実感しております。本年度は、児童の声が学校に響かないスタートとなりました。しかし、ピンチを全職員でチャンスに変え、「心優しく、たくましく、進んで学ぶ児童」の育成に全力で取り組んでまいります。



古河・仁連小
小林 力

地域に根ざした仁連小に勤務できることを喜ぶとともに、職責の重さを痛感しております。校歌の歌詞に「明るい夢を育てゆく」とあります。大変協力的な保護者や地域の方々、教育愛と使命感に燃える教職員と一丸となって、児童の夢と希望を育てられる学校づくりに全力で取り組んでまいります。



古河・三和北中
麻生 努

明るく素直な生徒たち、熱意ある教職員、温かく学校を支えてくださる保護者・地域の皆様。三和北中学校で勤務できる喜びと職責の重さを感じています。

本校のテーマ「生徒一人一人に輝く姿とよりよく生き抜く力を」の実現のために、チーム三和北のリーダーとして全力で取り組んでまいります。



結城・江川南小
伊澤博明

創立一四六年の歴史と伝統のある江川南小学校に赴任し、明るく素直な八〇名の子供たち、誠実な教職員、温かく協力的な保護者や地域の方々に出会えたことに喜びと職責の重さを感じています。教職員の力を結集し、「子供たち一人一人が輝き、笑顔あふれる学校づくり」に全力で取り組んでまいります。



結城・山川小
塚田裕史

創立一四五年の歴史と伝統ある山川小学校に勤務できることに感謝と、その職責の重さを感じております。

「人間性豊かでたくましく生きる山川っ子」の育成を目指し、協力的な保護者、地域の方々と連携を大切に、児童一人一人の笑顔あふれる学校づくりに全力で取り組んでまいります。



下妻・騰波ノ江小
永盛弘資

素直で明るい一二六名の子供たち。愛情をもって児童に寄り添う教職員。協力的で温かな保護者や地域の方々。すばらしい出会いに感謝するとともに、職責の重さを感じています。「みんな仲良く、笑顔でチャレンジ」を合い言葉に、一人一人を大切に、笑顔あふれる学校づくりに取り組んでまいります。



下妻・豊加美小
野口 修

創立一三一年の歴史と伝統ある豊加美小学校に赴任し、喜びと職責の重さを日々実感しております。「自ら学び、心豊かでたくましく生きる児童」の育成を目指しています。保護者や地域の方々との連携を深め、教職員が一丸となり、「安全・安心で笑顔あふれる学校づくり」に全力で取り組んでまいります。

歴史と伝統のある宗道小学校に赴任し、その喜びとともに職責の重さを実感しております。本校では、基本テーマ「主役は子ども、楽しい学校づくり」のもと「進んで学ぶ児童」「思いやりのある児童」「健康でがいやりのある児童」を目指しています。



下妻・宗道小
田崎一郎

明るく元気な子供たち、愛情をもって子供に向き合う教職員、温かく支えてくださる保護者や地域の皆様。この地で勤務できる喜びと職責の重さを実感しております。誰もが「今日が楽しく、明日が待ち遠しい学校」と思えるような学校づくりに、「チーム三妻」のリーダーとして取り組んでまいります。



下妻・大形小
中嶋一雅

校長室には、明治時代からの学校長の氏名・写真が掲げられています。この歴史と伝統のある本校に勤務できる喜びと職責の重さを日々感じています。

一五五名の子供たちが、それぞれの良さを伸ばし、夢と希望をもって楽しい学校生活が送れるよう、全職員一丸となって頑張っていきたいと思えます。



常総・三妻小
吉田幹夫

日本三天神の一社と数えられる大生郷天満宮に近い菅原小学校に勤務できる喜びとともに、職責の重さを感じております。「困てきな笑顔、困んばる勉強、困つ健康」を合い言葉に、保護者・地域とのつながりを大切にしながら、教職員が一丸となって笑顔あふれる学校づくりに努めてまいります。



常総・玉小
飯田正二

一〇四名の明るく素直な子供たちと心温かな保護者・地域の方々の出会いに感謝するとともに、その職責の重さを感じております。平成二七年の水害からの復興を糧に、困難を乗り越えて未来社会をたくましく生きる子供たちの育成、そして、それを支える安心安全な学校づくりに全力で取り組んでまいります。



常総・菅原小
齋藤輝行



常総・石下中
古川宏幸

四年ぶりの石下中学校勤務となり、三三八名の素直な生徒と三七名の情熱ある職員と共に過ごせることに感謝いたします。

学校教育目標「豊かな心と確かな学力で夢を育てる生徒の育成」を目指して、保護者・地域の皆様と共に全職員一丸となり生徒一人一人の夢の実現に向けて取り組んでまいります。



筑西・嘉田生崎小
宮川 勉

東に小貝川と筑波山を望む明治八年創立の本校は、地域とともに歩んできた学校です。長い歴史と伝統、地域に支えられた

嘉田生崎小学校に校長として勤務できる幸せと職責の重さを実感しています。未曾有の「危機」の中で、感染防止と学力の保障に「今できる最善」を求め、全力で取り組んでまいります。



筑西・上野小
谷池真彦

「光あふれる 風薫る 明野」と校歌に歌われる、豊かな自然に恵まれた筑西市立上野小学校に勤務できる喜びと職責の重さを感じております。「未来を拓く、

明るく、たくましい上野っ子の育成」を学校教育目標に掲げ、ふるさとを愛し、ふるさとの未来を担う児童の育成に、全職員一丸となって邁進いたします。



坂東・弓馬田小
國府田睦

明治一〇年の創立以来、多くの方々可愛され地域とともに歩んできた弓馬田小学校に勤務できる喜びとその職責の重さを実感しています。目指す学校像「笑

顔あふれる、元気いっぱい馬田小学校」を目指し、全職員で力を合わせ、保護者・地域の方々の力を借りながら精一杯努力してまいります。



坂東・長須小
武田 弘

「かがやく校章（しるし）はお茶の花 いつも香りにみちている」で始まる校歌は、作詞家サトウハチロー氏によるものです。

歴史と伝統があり、地域とともに歩んできた長須の教育のさらなる発展のため、そして、子供たちの笑顔の花を咲かせるために、全力を尽くします。



筑西・河間小
飯島 努

歴史と伝統、そして地域とともにある河間小学校で、明るく素直な二・四名の児童、熱心な教職員と笑顔で生活しています。未来を担う子供たちのため

に家庭・地域・学校が一体となって「感謝 河間」を合い言葉に学びと児童理解の一体化に組織的に取り組むことができる学校づくりに邁進してまいります。



筑西・鳥羽小
久下英彦

温かい地域、愛情いっぱい保護者と共に歴史と伝統を積み重ねてきた鳥羽小学校に勤務する責任を日々実感しています。

コロナ禍の中でも前向きに、校歌の歌詞「鳥羽の良い子はぐんぐんのびる」を目指し、全児童の人間担任として、一人一人にしっかりと力を付けるための学校経営を行ってまいります。



筑西・長讃小
大森 弘

筑波山麓の豊かな自然と地域の人たちに愛され続けた一四七年。今年度の授業のスタートは、九九人の全校児童が集まった五月二五日でした。こんな時だからこそ、子供一人一人に寄り添い、個性を伸ばし、夢を育む教育を進め、地域の未来のために、全職員が力を合わせていきたい

と思います。



坂東・飯島小
鴻巣伸二

創立一三一年、歴史と伝統ある飯島小に勤務できる喜びと職責の重さを実感しております。

一人一人を大切にしたい教育活動を基盤に、「あいさついっぱい・夢いっぱい・笑顔の花咲く飯島小」を合い言葉として、教職員が一丸となって思いやりと笑顔あふれる学校づくりに全力で取り組みんでまいります。



坂東・逆井山小
神吉哲寛

豊かな自然と温かな人々に囲まれて育った子供たち。今年度一四一年目を迎える逆井山小学校に赴任し、大きな喜びと職責の重さを感じています。

二〇一名の子供たち一人一人が長所を伸ばし、将来を思い描くことができる学校づくりに保護者、地域、教職員と共に取り組んでいこうと思います。



坂東・東中
小林聖子

素直で明るい生徒たちを温かく見守り学校を力強く支えてくださる保護者や地域の方々日々感謝しております。生徒同士・生徒と教師・教師同士・学校と家庭・地域の「つながり」を大切に「安心・安全な学校」「一人一人がキラキラと輝き笑顔あふれる学校」を東中教職員一丸となって目指してまいります。



桜川・羽黒小
石川義信

学校支援ボランティアの皆様をはじめ、地域の力に支えられていることを強く感じ、感謝する毎日です。同時に、「期待にこたえていかなくては」と気を引き締めています。熱意と活力のある職員と共に、「自分で考え、適切に判断し、行動できる」児童を育てることを目標に努力する所存です。



桜川・樺穂小
嶋田 稔

雄大な筑波山、自然豊かな環境に恵まれた樺穂小学校。創立一四七年の歴史と伝統ある学校に勤務できる喜びとその職責の重大さを日々感じております。初心を忘れず、学校、保護者、地域の絆を大切にし「チーム樺穂小学校」を合い言葉に心の通い合う、活力ある学校づくりに全力で取り組んでまいります。



桜川・岩瀬西中
田村俊之

富谷山・富谷観音の懐に抱かれた歴史ある岩瀬西中学校に勤務できることを光栄に思うとともに、身の引き締まる思いです。これからの時代を生き抜ける生徒の育成を目指し、未来志向の学校経営を進める所存です。「ステップアップ！」を合い言葉に、生徒・教師一丸となって邁進したいと思えます。



桜川・大和中
坂入俊夫

緑豊かな素晴らしい環境、学校を愛し応援してくださる保護者・地域の方々、明るく素直な生徒たちに迎えられ、勤務できますことの幸せと職責の重さを実感しております。「夢に向かって一歩前進」を合い言葉に、生徒のよりよい成長を目指し、夢の実現に向けて全職員で力を合わせ取り組んでまいります。



結城郡・安静小
竹久武志

創立一四七年の歴史と伝統ある安静小学校で、一八六名の子どもたちと共に生活できること、とてもうれしく思います。新型コロナウイルスの影響で経験したことのない状況にありますが、子供たちが「明日も安静小へ行きたい。」と笑顔で言える学校づくりに、全教職員で奮励努力してまいります。



結城郡・川西小
斎藤浩二

明治一九年の創立以来、多くの方々へ愛され、地域とともに歩んできた川西小学校に勤務できる幸せと職責の重さを実感しています。地域に根ざした魅力ある学校づくりを進め、一一七名の子供たちが笑顔あふれる楽しい学校生活を送れるよう、教職員で協力し、全力で取り組んでまいります。



結城郡・東中
池田いづみ

歴史と伝統のある東中学校で一八三名の素直な生徒たち、熱心な教職員、協力的な保護者や地域の方々に支えていただきながら勤務できる喜びと職責の重さを痛感しております。「大志をもち心身ともにたくましい生徒の育成」の実現に向けて、みんな一丸となって全力で取り組んでいく所存です。



猿島・五霞東小
中川孝志

自分が三〇代の頃、九年間勤務した五霞東小学校に、校長として戻ってくることができ、心から嬉しく思っています。東小のシンボル「けやき太郎」にちなみ「㊦ 健康、㊧ やる気、㊨ 希望」を合い言葉として、元氣いっぱい、夢いっぱい「けやきっ子」を育てていくことに全力を尽くしてまいります。



猿島・五霞西小
飯田典子

豊かな自然、協力的な保護者と地域に支えられた五霞西小。一四三名の素直な子供たちと熱心な教職員との出会いに感謝するとともに、校長としての職責の重さを実感しております。「児童一人一人が輝き、笑顔あふれる学校」を目指し、チーム五霞西小の創造力と組織力を活かして取り組んでまいります。



猿島・森戸小
根本郁夫

長い歴史と伝統、地域に愛される森戸小学校で勤務することに責任を感じています。心優しく素直な一九一名の子供たちのさらなる成長へ向け「全ては子供たちのために」をモットーに全力を注ぐ覚悟です。子供も教職員も一人一人のよさが発揮できる活力ある学校を築いていきたいと思えます。



猿島・境第二中
大谷良明

六二年の伝統と歴史を持つ境第二中学校、私が教師生活をスタートさせた学校でもありません。原点に帰って来られた喜びと責任の重さをひしひしと感じております。校訓の「真理を求め勤労を愛し創造に生きる」の教えをかみしめ、生徒と教師が学校や地域を誇りに思う学校づくりに取り組んでまいります。

再任会員名簿

Table with 17 columns: No., 郡市名, 学校名, 氏名. Lists members of the re-appointment committee.

Table with 17 columns: No., 郡市名, 学校名, 氏名. Lists members of the re-appointment committee.

ご逝去を悼む



令和二年五月二七日、坂東市立猿島中学校長、霜田幸男先生が逝去されました。霜田先生は、部下思いで周囲を大切にされ、教育に情熱的に取り組んでこられました。ここに哀悼の意を表すとともに、謹んで霜田先生のご冥福をお祈りいたします。

令和二年度 学校長会役員

- 会長 小野瀬繁子(永・第三中)
副会長 大塚 昌弘(永三の丸小)
副会長 内山 信弘(日・多賀中)
副会長 村田 武彦(銚田南小)
副会長 金子 英信(石・国府中)
副会長 栗原 恵子(坂・岩井第一小)
監事 久保智佳子(永・笠原中)
監事 富山 明子(日・小路小)
監事 宮内 芳孝(鹿・高松中)
監事 黒澤 智(龍・愛宕中)
監事 武田 孝彦(筑・竹島小)



上段左より：村田武彦副会長（銚田南小）、金子英信副会長（石・国府中）、栗原恵子副会長（坂・岩井第一小）
下段左より：大塚昌弘副会長（永三の丸小）、小野瀬繁子会長（水・第三中）、内山信弘副会長（日・多賀中）

令和二年度 (一財)茨城県教育センター (教育プラザいばらき内) 職員

- 理事長 砂川 洋一
副理事長 東小川昌夫
事務局長 坪 哲男
主幹(校長会担当) 木村 明弘
主幹(研究会担当) 磯崎 則男
主幹(教育センター担当) 石島久美子
主幹(校長会・研究会担当) 佐々木有香
どうぞよろしくお願ひいたします。

編集後記

新型コロナウイルス感染症への対応におられる新年度のスタートでしたが、一五三名の新会員の皆様からのお言葉を掲載し今年度の第一号を発行することができました。
第3期中期ビジョンが二年目となり、働き方改革を実現し、新しい時代の教育に向かう皆様の学校経営の一助となる誌面作りを務めてまいります。
年度初めのご多用の中、原稿をお寄せいただきました皆様に心より感謝申し上げます。